

# 主にありて



日本福音ルーテル仙台教会 40周年記念誌

## 40周年記念挨拶

仙台教会牧師 ベケダム・マフロン

主イエス・キリストの御名を讃美します。

日本福音ルーテル仙台教会では、毎週主日礼拝を守って、三位一体の神様を礼拝します。教会の兄弟姉妹は、ナザレのイエス様が世の救い主であり、神の御子であると信じて、そう証しをします。

日本福音ルーテル仙台教会は1957年8月に始まりました。この40年間の聖霊のお導きによる歩みを、今年省みております。特に、40周年を祝う記念誌を以て、信仰の証をしようと思っています。キリストを信じる信仰がどういう事か、この記念誌は表現します。どうぞ、お読み下さい。

## 目次

40周年記念挨拶	仙台教会牧師	マフロン・ベケダム	-----	1
仙台教会のあゆみ			-----	4
	長沼三千夫牧師		-----	5
	リビングストン宣教師		-----	5
	通木一成牧師		-----	7
	クヌートソン宣教師		-----	10
	白川清牧師		-----	10
	藤井邦夫牧師		-----	11
	杉山晴吉牧師		-----	12
	内海革牧師		-----	13
	太田一彦牧師		-----	14
	ルティオ宣教師		-----	17
	クリステンセン牧師		-----	18
	ベケダム牧師		-----	19
仙台教会創立四十周年を祝して			-----	20
仙台教会信徒の証し				
	小泉あや子姉		-----	20
	小野寺洋逸兄		-----	21
	小野寺満里子姉		-----	23
	おがわこうき兄		-----	23~28
	マフロン・ベケダム牧師		-----	29
	阿部富夫兄		-----	29
	高橋千鶴子姉		-----	30
	大内経子姉		-----	31
	伊藤節子姉		-----	33
	伊藤秀志兄		-----	33
	村田いづみ姉		-----	34
	成田しげ子姉		-----	34
	長島慎二兄		-----	36
	中村和子姉		-----	36
	西宮弘兄		-----	37
	ナンシー・ベケダム姉		-----	39
祝辞				
	長沼三千夫牧師		-----	41
	白川清牧師		-----	43
	藤井邦夫牧師		-----	44
	太田一彦牧師		-----	44
	通木一成牧師		-----	45
	クリステンセン牧師夫妻		-----	46
	内海革牧師		-----	47
	落合成光牧師		-----	48
	渡辺純幸東教区教区長		-----	49
	クヌートソン宣教師		-----	50
	ベケダム牧師		-----	50

思い出のアルバム -----	53～64
40周年記念キルト制作 -----	65
四十周年キルト -----	65
キルト完成写真 -----	66
ダビデとゴリアト -----	67
エデンの園 -----	67
天の星 -----	68
エルサレムへの道 -----	68
ゴルゴタ -----	69
ソロモンのパズル -----	69
占星術の学者の星 -----	70
十字架の中の十字架 -----	70
ホサナ -----	70
天における戦い -----	71
ヤコブの階段 -----	71
茨の冠 -----	71
イスラエルの民 -----	72
十字架と冠 -----	72
ヨセフの暗れ着 -----	73
ヨブの涙 -----	73
シャロンのばら -----	74
編集後記 -----	75

## 仙台教会のあゆみ



- ◇ 1962年(昭和37年)12月  
初代牧師長沼三千夫先生の時代に建立される、
- ◇ 1993年(平成5年)  
K.クリステンセン牧師の時代に集会室の増築、会堂  
の修理が行われた。

- ◆ 長沼三千夫 牧師  
(1957～1970)  
J. リビングストーン宣教師  
(1961～1970)

1957年8月4日

現在地の近くの家を借り六畳の部屋で第一回の礼拝が行われた。出席者は牧師家族と小泉あや子姉であった。

1958年10月

集会場所を仙台基督教女子青年会のホールを借り移転礼拝を行った。

1959年11月

現在地の土地・建物を購入

1959年12月

この建物を修繕してクリスマス礼拝より集会を始める。新しい伝道所は八畳二間であった。

1961年12月

J. リビングストーン先生宣教師として着任

1962年12月

現在地に教会堂・牧師館完成

1963年

塩釜集会開始。J. リビングストーン先生が加わり毎週日曜日主日礼拝がもたれた。

1966年

古川集会開始。月一回商工会議所の一室を借り夜聖書研究と祈祷会が持たれた。  
長沼牧師リビングストーン先生含め5名位の出席でした。

長沼先生は月刊紙「るうてる」の中で仙台教会のことを次のように記しております。

“最初に教会の集りに出席した人は学生達であり彼等の殆どが他地方出身の学生で在学中は四年間熱心に教会に出席しても卒業と同時に当地を去るものが殆どであり毎年同じ事が繰り返され、新しい人が残る教会となった。しかし成人信徒の定着を基礎とする教会形成を目指していることを強調していた。そして先生は幾多の困難の中で私達に伝えたい原点はパウロのことばだったように思える。

想



黙

ああ物わかりのわるいガラテヤ人よ、十字架につけられたイエス・キリストがあなた方の目の前に描き出されたのといった

ただれがあなたがたを感わしたのか。

私たちが聖書を眺んでみると、十字架の死を正しく理解したのはパウロであったと思ふ。ガラテヤ書で彼が自分の使徒性について誇りをもって語った時でも

十字架の意味を本當に理解をした者としての確信にみちてゐる。コリント第一の手紙三章二節にも「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外の事はあなた方の間では何も知るまいと決心した」と語っている。

十字架の意義を本當に理解をして、キリストの十字架のあがないによつてのみ罪から救ひ出されたというあの罪人にとつてはまことに喜ばしいおとずれが伝えられた。これを信するこ

い。というのは今日でも十字架の罪が今日も人々を死に至らせ、社会を亡びに至らせる罪を忘れ、人間の現実を救つものが十字架のキリストである事を忘れてゐる。

第三に私たちがいつでも忘れてゐる事がある。それは十字架の愛である救いが律法でなく信仰であると言ひ、説き、また聞く時、律法の行いを生活の中に生かさず愛について考へて行くことしない事である。神が人間を愛してキリストを十字架にかけたあの愛が忘れられ、冷たい自分中心の人間の交わりがあるだけの今日のキリスト者ではないか。

### 十字架につけられた

キリスト

長沼三千夫

キリスト教はあらゆる人に対して福音を宣ふことを主張した。福音とは言うまでもなく「喜ばしきおとずれ」である。神があらゆる人間を民族性や階級性や能力の故に救おうとするのでな

そこでパウロは十字架につけられたキリストをもつて一度ガラテヤの人々に思い出させようとしたのである。

第二にはキリストの十字架にかかわる事は神話的な出来事としか考へない人達である。この人達はキリストの十字架の意味を単に犠牲的な人間愛の最高

ガテヤ教会のみの問題ではな

を単に犠牲的な人間愛の最高

（仙台教区牧師）

は5う抜  
文章あり  
文6“よ  
の9の”  
記9号る  
右1月て粹

- ◆ 通木一成 牧師  
(1970～1975)  
A.クヌートソン宣教師  
(1973 - 1982)

1970年

通木牧師着任

青年層への伝道を始める。青年会の佐藤俊夫兄は誕生日の7月19日に受洗、通木牧師の第一号の受洗者となる。

教会の土着化をはかるため、中高年層への伝道に力を入れる。特に婦人会の再興に着手する。毎月第四火曜日を集会の日とする。

1971年

鶴ヶ谷開拓伝道開始

- ◇ 東教区総会、東北伝道強化を教区方策として確認。この頃仙台市より鶴ヶ谷住宅団地に保育園開設を条件に1,000坪の土地を有償提供の話を受ける。
- ◇ 東教区鶴ヶ谷開拓伝道実行委員会設置、東教区内において一坪献金運動開始。(献金目標額1,500万円)
- ◇ 仙台教会、一人一人全力で取り組む。
- ◇ 当時の総会資料に次のように記している。

「長年の夢であった複数の教会が鶴ヶ谷土地購入によって実現の一步を踏み出した。

仙台教会の"自立"を考える時"もう一つの教会"は絶対に必要なものであり、そしてこれの実現が東北伝道の出発点となるのである。

"宣教への自立と連帯"という新しい伝道のパターンをもって立ち上った東教区の姿勢に地元仙台教会は力強く応じていくことが神に要求されているのである。」

1973年4月

鶴ヶ谷開拓伝道所献堂式が行われる名称は「社会福祉法人東京老人ホーム鶴ヶ谷保育所 希望園」





1973年  
「るうてる」  
5月号抜粋

## 鶴ヶ谷開拓伝道所 献堂式挙行さる

東北伝道の拠点を得るべく、教会の福音宣教の自立を果たすために、東教区、仙台教会が賭けた鶴ヶ谷伝道所の献堂式が、ようやく春らしくなった四月七日午前十時より、通木一成仙台教会牧師、岡田曠吉東教区長の司式・説教によって行われた。

一九七一年六月の東教区臨時総会において、幾多の困難な問題点を指摘されつつも、あえて足を踏み出すことに決議されて以来、一年十ヶ月、実行委員会を中心に土地一千坪購入のための一坪募金運動、数回の現地調査、建設計画の検討など一人一人がギリギリの努力をしてきた希望が、現実となっ

て主に祝福されたのである。式には宮城県、仙台市、そして市内の保育園、諸教派、町内会などの代表をはじめ約一〇〇名が出席した。関東地区からも十数名が参加した。

ここに至るまでに、いかに多くの方面の人々の祈りと努力が結集されていたかを如実に示していた。午後には、仙台教会と保育園の職員の方々によって準備された祝賀会が開かれた。廊下には、神学大学の宣教研究室が昨年九月に行った現地調査の結果がパネルによって展示されていた。

西隣りの土地には、広い児童公園があり、東隣りには公立の養護老人ホームと病院が将来作られる。そうで、鶴ヶ谷ニュータウンのセンターにあつて、福音を伝え、地域社会に奉仕するためには、最高の場所である。

建物は東京教会の清重喜一氏の設計による木造平家建一階二階建て面積延二一三・六坪、保育室と住宅、それに遊戯室兼用の集会所がある。

名称は「社会福祉法人東京老人ホーム鶴ヶ谷保育所『希望園』」、活動目標は、イ、キリスト教会が隣人愛の社会的実践として現実社会のニードに応えながら、深く地域社会と関わり仕えていくこと、ロ、児童福祉施設であることを踏

まえて、キリスト教精神にもとづいた真の幼児教育の可能性を探求していくことにある。

すでに開園式は四月一日に行われ、九日から保育活動をはじめており、父母の会も発足して強力な支援を送ってくれている。

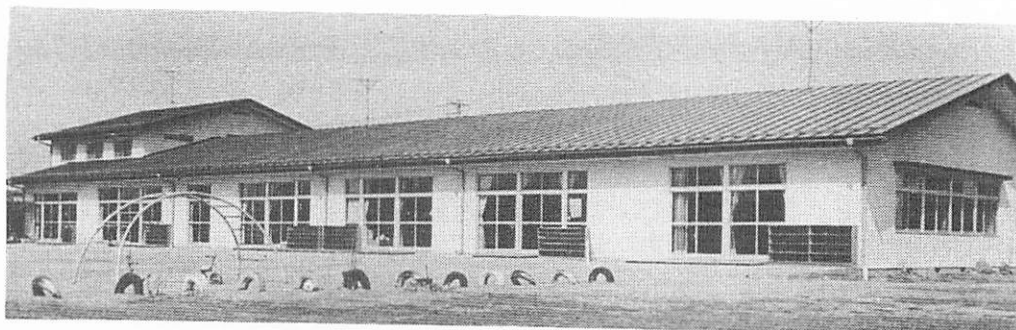
通木牧師の夫人まで応援にかけて、一才児から五才児までの九十名の園児をあずかって、開所間もないために、いろいろな苦労に真面目につつ毎日奮闘していること。

五月からクヌートソン宣教師夫妻が加わることになるが、仙台教会と兼任で園長を務められる通木牧師、そして仙台教会の方々のために祈りと支援をなさずにはおられない。

今後、学童保育などのコミュニティ・センターとしての活動が地域から要望されている。(伊藤記)

1974年

- ◇ 10月6日  
希望園での教会学校はじまる。
- ◇ 12月24日  
クリスマス・イブ礼拝希望園にて。  
教会学校と鶴ヶ谷住民と共に。
- ◇ 希望園全景



## きぼうえんのうた

作詞 通木一成  
作曲 名取 秋子

ちいさいこどもは すやすやねむる  
せんしのように かわいいがあして

ちいさいこどもは げんきにおどろ  
ほしのように きらきらあそぶ

ちいさいこどもは のほろほろ  
ゆりのおぼろに かこまね

ちいさいこどもは あそびをかける  
はなのように ははあそび

ちいさいこどもは あかしくいきる  
ひかりのように きぼうにみち

- 1 ちいさいこどもは すやすやねむる  
せんしのように かわいいがあして
- 2 ちいさいこどもは げんきにおどろ  
ほしのように きらきらあそぶ
- 3 ちいさいこどもは のほろほろ  
ゆりのおぼろに かこまね
- 4 ちいさいこどもは あそびをかける  
はなのように ははあそび
- 5 ちいさいこどもは あかしくいきる  
ひかりのように きぼうにみち

◆ A.クヌートソン先生の働き

- ◇ 主日礼拝 司式、説教 (通木牧師と交替で)
- ◇ 英会話教室  
希望園にて、毎週土曜日午後2時から1時間  
鶴ヶ谷地域の小学生対象 M.クヌートソン夫人と共に
- ◇ 希望園職員に対しての礼拝  
毎週金曜日
- ◇ 婦人会の聖書研究

◇当時の通木先生の文章に次のように書かれている。

宗教改革に立つルーテル教会はいつでも聖書を学び聖書に立つ信徒の群れであり続けるし、それは教会の働きを社会から遊離したところにおくのではなく教会がこの世のまっただ中でダイナミックに生きることを意味しよう。

この言葉はまさしく希望園であり、私達に社会の苦しみやたたかいの中で"地の塩""世の光"として力強く生きよと教えていると思う。

◆ 白川清 牧師  
(1975～1976)

1975年4月

白川牧師着任

- ◇ 1975年度の目標「岩の上に教会を」  
マタイ伝7章24節—27節
  1. 仙台教会の完全自給
  2. 信徒が伝道に対して自覚と責任を持ち積極的に参与していく
  3. 鶴ヶ谷開拓伝道の強化
    - (1) 教会学校の充実
    - (2) 礼拝の開始
- ◇ このような目標をかかげたが、牧師は「1975年度教勢を省みて」の中で"足踏み状態"と述懐している。
- ◇ しかし婦人会の活動は顕著だった。  
1975年度「仙台教会の歩み」より抜粋
  - 6月25日 婦人のための聖書研修  
(将監団地 斎藤姉宅)
  - 7月23日 団地での聖書を学ぶ会  
(田村姉宅)

8月10日	聖日礼拝において証し (成田姉、田村姉)
9月5日	聖書を学ぶ (成田姉宅)
9月25日	家庭集会 (黒松団地木野姉宅)
10月1日-2日	婦人会奉仕、教会堂のニス塗り 台所・窓の 清掃
10月22日-23日	婦人会奉仕、集会室のニス塗り 椅子のペンキ塗 り
10月23日	家庭集会 (梅森姉宅)
11月26日	家庭集会 (田村姉宅)
12月2日	家庭集会 (小島姉宅)
12月9日	婦人会奉仕、椅子シートのねじ止め作業
12月11日	家庭集会 (木野姉宅)

◆ 藤井邦夫 牧師  
(1976~1977)

1976年4月

藤井牧師着任

- ◇ 1976年度は牧師転任問題、牧師進退問題で揺れ動かされ教会活動が沈滞した。
- ◇ 鶴ヶ谷での長年の念願であった礼拝が開始された。  
11月14日午後7時より平均出席者11名であった。
- ◇ 会堂の掃除・献花が皆の協力でなされた。
- ◇ 集会堂のペンキ塗りが皆の奉仕でなされた。
- ◇ 婦人会の活動  
定例集会と聖研  
白川先生の転任のあとクヌートソン先生の指導で「ヨブ記」を学んだ。  
家庭集会  
今年度もクヌートソン先生によって続けられている。  
「マルコによる福音書」を学び家庭礼拝のひとときをもつことができている。
- ◇ 1976年度代議員報告の中で西宮兄は次のように述べている。  
新任の藤井牧師は鶴ヶ谷希望園の園長が本務と決定されたため仙台教会に専念して頂けなかったことも教勢不振の一つの原因だったかと思われます。

◆ 杉山晴吉 牧師  
(1977～1982)

1977年4月

杉山牧師着任

◇ 家庭訪問中心に伝道を行った。

◇ 1977年10月23日、長沼三千夫先生をお迎えして20周年記念礼拝を行った。

長沼先生説教「人間の歴史と神」



◆ 内海革 牧師  
(1982~1985)

1982年4月

内海牧師着任

- ◇ 1984年度牧師覚え書の中に次のように記されています。次の言は私達のこれからの教会生活、信仰生活へのメッセージとして受けとめ抜粋させていただきました。

教会の年間事業計画はなんのため建てられ、なにを目標にしているかを申しのべておきます。年間事業計画は、教会形成5ヵ年計画に対応して84年度の標語、目標が定められているのに対して、具体的な年間主題聖句、実施計画がたてられます。ですからその事業の目標は教会形成一教会の信仰の確立、すなわち信徒の信仰への覚醒とその深化にあります。それによって、出たり入ったり、また出たり、という出入勝手のサークルから「神のことばの主権に服する教会」一みことばの教会になることを目指しています。ですから、これらの教会のわざを契機にして多くの未信者が求道することを祈るのはもちろんですが、これらの教会の事業一教会のわざは、なによりも私が神のことばを聞き、理解し、理解したところにしたがって生きる、生活を組み立てる一つまり信仰生活を建て、その信仰生活のなかから生まれた私の信仰の言葉(証詞、感話ともいう)を持つことを目指しているのです。

そして最後に次のように結んでいる。教会形成の目標である「教会の信仰の確立」に向かつて、さらによく教会の事業を行い、前進、深化、真のものに向かう余地があることを自覚いたさねばならないと思います。

◇ 教会形成5ヵ年計画

目標	教会の信仰の確立	
年	標語	年間主題聖句
82年	4月着任	
83年	礼拝する群	ピリピ3章10節~11節
84年	神のことばに聴く群	ローマ10章17節
85年	求道する群	第一テモテ署2章4節
86年	神のことばの群	
87年	証言する群	

- ◇ 教会形成について先生は1983年「仙台通信」4月号の中においても次のように述べています。

教会形成はグループづくり、組織づくりでなくあくまで信仰の確立と形成とこの信じる者の教會的「共に生きる」の形成であると確

信しています。そういう方向へ伝道、牧会をすすめていくつもりです。

◇ 更に 1984 年「仙台通信」6 月号の中で、「教会ということ..」の文章の中で次のようなことが語られています。

共に祈り、共に礼拝を捧げ、共に聖書を学ぶことに喜びを持ち、そのことのために集まっている集会在キリストの体であろう。これを自分の生活の座として世に生きるための集会であるところに、よくキリスト者としての人格を現しているのである。

◇ 伝道は客引きではない。

「人によるこばれようとして語ることも、人の歎心を得ようとして語る必要もない。ただキリストのしもべとして、神のこばを忠実に語るのである」(ガラテヤ 1:10 より)。求道する新来会者は与えられるもの、連れてこられる者である、ということです。

◆ 太田一彦 牧師  
(1985～1992)

1985 年 4 月 太田牧師着任

◇ 1985 年度牧師報告の中で教会について次のように記しておられます。

初めての任地に赴くに際して、私は神が人間に語り給うが故に聴き、神が語り給うことを聴くという、この一事によって教会は基礎づけられ、この一事のみが教会を教会たらしめるという一点を信念として携えてまいりました。.....

教会は神が召し、礼拝がなされ、神がつかわすということの間に生きる動的な群れである。

私達の救いが神の選びに基ずきイエスキリストにあって生きることであるとすればそれは私達がそのような教会に生きることによってのみ経験される。

教会は何よりもまず神の言葉の群れの共同体であり、礼拝共同体であり、宣教の共同体であり他者に仕える共同体と言える。教会がそのような共同体であるとき、それは真の信仰と希望と愛の共同体となる。

◇ 宣教について

私達の手で企て作り出した交わりによって仲間を獲得しようとするのは真の宣教ではない、私達の群れが神の言葉に聴き、神の主権と恵みを証する群れである時、神の言葉自身が宣教の主体となるのです。したがって私達が神の言葉を聴く時に私達は真の

宣教の群れ、宣教の共同体となることだと思えます。各自が神の言葉を聴き、神の主権と恵みを証して生きることにおいて、仙台教会の宣教は真に遂行されていくものと信じています。

- ◇ 平和主日礼拝 1985年8月18日  
平和宣言をめぐり懇談し、四週の討論の後公にする。  
私達は神の主権を証する群れとして、国家権力が自らの主権を絶対化し、言わば自らを神として私達に屈服を迫り始めている今、断じて"否"を言わなければならない。

#### 平和宣言

現在膨大な核兵器の存在が、人類と地球の存続を脅かしていることを否定するものはないと思えます。

それにも拘わらず、核保有国とりわけ米ソ両国は、核抑止力による防衛という名の下に留まるところのない核兵器の増産、新規開発に狂奔しています。核抑止力による平和と称して軍備を増大させようとする政策は、歴史を支配し、審判したもう生ける全能の神を忘れ、神ならぬ核という偶像を拝し、それに依り頼もうとする人間のおろかな罪の行為以外の何ものでもありません。

私たちは、かつてアジアの国々を侵略し多くの人々を苦しめたその反省に立って制定された日本国憲法第二章第九条の戦争放棄を貫徹し、さらに唯一の被爆国としての経験が産んだ非核三原則を厳守することこそが、神が日本に与えたもう世界に向かつての責任と使命であることを厳肅に自覚するとともに、真の世界平和は、何よりも一人一人が悔い改めて、魂に平和の主イエス・キリストを迎えることから始まることを再確認いたします。

私たちは『剣をとる者はみな、剣で滅びる。マタイ 26:52』の愚を捨て、『…そのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。イザヤ 2:4』世界の実現のために、夫々の置かれたな所であらゆる努力をつくすことを宣言します。

1985年8月18日

- ◇ 秋の特別礼拝 1985年11月17日  
江藤直純牧師 「キリスト者と平和」 懇談会



私達は主によって理性と自由と勇気を与えられ、平和をつくり出すために召されているのです。

- ◇ 鶴ヶ谷教会との共なる歩みが 85 年度より始められた。  
平和宣言、夕礼拝、合同修養会 7 月 27 - 28 日 鬼首高原にて合同婦人会クリスマス礼拝 12 月 12 日

神によって起こされた「人は信仰によってのみ義とされる」という真理の下に立つ二つのルーテル教会が、この仙台の地にあってその真理を証するためには二つの教会の"共働"が不可欠であると思う。

信仰をあるいは生を真に分ち合うという意味における真の交わりを、さらに続けていかねばならないと思います。

東北伝道という夢が二つの教会の共通の夢として生じ、やがてこの地における神の宣教の働きに私達が参加させられる喜びにあずかると思うのです。

- ◇ 1986 年の主題「神の言葉の群」

私達の群れが真に生かされるのは、神様の語り給うみ言葉を私達が真に聴くことによるのであり、そのことが起こるとき私達の群れは真に信仰と愛と希望の共同体としてこの世に生かされる。

私達が真に神様の言葉を聴くとき、私達は神様から力を与えられ、この世に力強く神様の主権と恵みを証することができるのです。

鶴ヶ谷教会との聖壇交換、初めて行われる。

年 2 回 4 月 20 日、11 月 16 日

7 月 26 日～27 日 仙台・鶴ヶ谷合同修養会

12 月 23 日 仙台・鶴ヶ谷合同青年会クリスマス礼拝

神の主権を証する集会として

9 月 21 日 平和主日礼拝

9 月 18 日の中国に対する日本軍の侵略、柳条湖事件を憶えて

超教派によるシマンスキー氏講演会、南ア反アパルトヘイト祈禱会、平和セミナー、解放の神学の読書会への参加

- ◇ 1987 年の主題「証言する群」

牧師報告より

1987 年は仙台教会にとって一つの節目であった。この地に長沼先生によってみ言葉の種がまかれて 30 年であった。

私たちはクリスマスに長沼先生をお迎えして、このことを憶えて共に礼拝を守った。仙台教会から生まれていった鶴ヶ谷教会もこの年に会堂が与えられた。若いルティオ先生が着任

されたことで特伝を始として若者を中心に多くの方が教会の門をくぐり、またこれまで東北大YMCA、アムネスティや平和事務所等様々なグループが教会で勉強会や集会を開くようになった。財政面や統計面でも安定そして成長の兆しが確かなものになってきたように思われる。私達が厳しい状況の中にも希望をもってこの節目の年を迎えたのは私達の小さな群が歩みを続ける中で、いつも神様の言葉に聴く“神の群”でありたいと心から欲してきたからと信じています。

◇ 1988年～1992年

5ヶ年目標のそれぞれの主題を私達の歩みの中心に置き

- 1 若い人々への宣教を教会の課題として取り組む
- 2 地域の方々に教会の門をくぐっていただくための取り組み

(1) 平和事務所への部屋の提供

(2) ルーテルスクールの開始

受験体制の学校教育から切り捨てられ、あるいは自らその枠から飛び出していったいわゆる落ちこぼれと世間で言われている若者や、そんな学校に魅力を失い拒否している若者が勉強したり、人生について考えたりしながら悩みや希望をわかち合えるような場をつくる。

(3) 町内会英会話の開始

地域に根ざした教会の宣教、という視点からそれぞれ活発な活動がなされた。

◆ マーク・ルティオ 宣教師  
(1987～1992)

1987年8月 仙台・鶴ヶ谷両教会の宣教師として着任

◇ 1987年10月11日 第一回説教 以後第2日曜日説教

◇ 「ヤングピープルズ・フェローシップ」の集いの開始

◇ 先生は太田牧師と共に主に若者への伝道に係わった。

◇ 第一回特伝 「黒人霊歌の夕べ」 56名

第二回特伝 「リーチアウトシンガーズ」 44名

第三回特伝 イブ礼拝「東北大リコーダーアンサンブル」  
66名

◇ 牧会活動 訪問、カウンセリング等の活動

◇ 両教会の間の懸け橋として奉仕を続けられた

◆ K. クリステンセン 牧師  
(1992～1996)

1992年4月 K. クリステンセン牧師着任

- ◇ クリステンセン牧師は教会について”A4 “の教会をつくるビジョンをもっています。

暖かい	明るい
愛に満ちた	開け放された

- ◇ 日曜礼拝を最優先する
- ◇ 主日礼拝の始まる前に 10 分間を瞑想の時間とする
- ◇ 地域に根ざした宣教
  - (1) 5才～12才児  
始まる前に 15 分のチャペルタイムを持つ。聖書物語を聞き、イエス様について話す。
  - (2) 大人の英会話  
学習後キリスト教、信仰時事問題について話す。

2. バザー

3. 特別伝道

アドベントとクリスマスの間に行う

- (1) クリスマス飾りを作る会 地域の婦人たちを交えて
- (2) アドベントサンデー音楽礼拝
- (3) クリスマスコンサート
- (4) 若者の夕べの集い

- ◇ 鶴ヶ谷教会との係わり

1. 合同礼拝	1992年度 1回	1993年度 3回
	1994年度 4回	1995年度 なし
2. 講壇交換	1993年度 2回	1994年度 2回
	1995年度 なし	
3. 墓前礼拝	1994年度 1回	

- ◇ 駐車場の整備 牧師館老朽化のため取り壊し駐車場とする。  
1993年1月 これは賃貸のためではなく信徒、新来者のため
- ◇ 教会の補修と集会室の増築

業者との契約は 1993 年 4 月でしたけれども、11 月クリステンセン牧師の入院というアクシデントもあって、又業者との手違い等色々な困難をのりこえて 12 月末に完成しました。

8 月 23 日～8 月 26 日の間八王子教会と保谷教会からの合同ボランティアの方 5 人来仙され、ご奉仕されました。台原牧師館にお泊まりして一緒に屋根のペンキぬりかえ。外かべのペンキぬりをして頂きました。

若いみなさんはもちまへのパワーをフルに発揮され、惜しみない奉仕の心で働かれ本当に感謝で一杯です。

— 1993.8 思い出より —

◇ 夏休みキャンプ (CS 報告より)

7 月 28 日 (金) ～30 日 (日) 場所 セヶ浜東北学院高山セミナーハウスで参加子どもが 24 人 そしてお世話役で大人 (教会員) 11 人出席する。お互いによろこびと良い交わりの時をもちたれ当日は好天にめぐまれ思い出の一頁になりました。

— 1995.7 自然のなかで —

◆ M. ベケダム牧師  
(1996～)

1996 年 4 月 M. ベケダム牧師着任 現在に至る

◇ “証をすること” を 1997 年の主題とした教会形成

◇ 1997 年 6 月より教会学校を再開

# 仙台教会創立四十年を祝して

小泉あや子

昭和三十一年十月から、主人が東北大に転勤ときまり「私も来年は仙台に行きます」と大阪教会の中尾牧師に云うと「今年の総会で仙台伝道がきまったところだから、信者が行ってくれると丁度よい」と言われた。

昭和三十二年五月末、私が仙台のアパートについてすぐ、内海季秋牧師が来られ、「仙台に教会を創てる。牧師は神戸教会の長沼牧師と決まった。場所はお宅の近くに家を借りる」と言われた。夏休みが終わる頃、長沼牧師一家は北五番町の借家に来られ、そこで教会が始まった。出席者は私一人。毎週牧師夫妻と三人の礼拝が暫く続いた。その後、四番町のYWCAの集会場を借りて、礼拝が行われた。東北大の寮も近いので学生の出席者もふえた。今残っておられる瀬戸姉も成田姉もその頃からおられた。

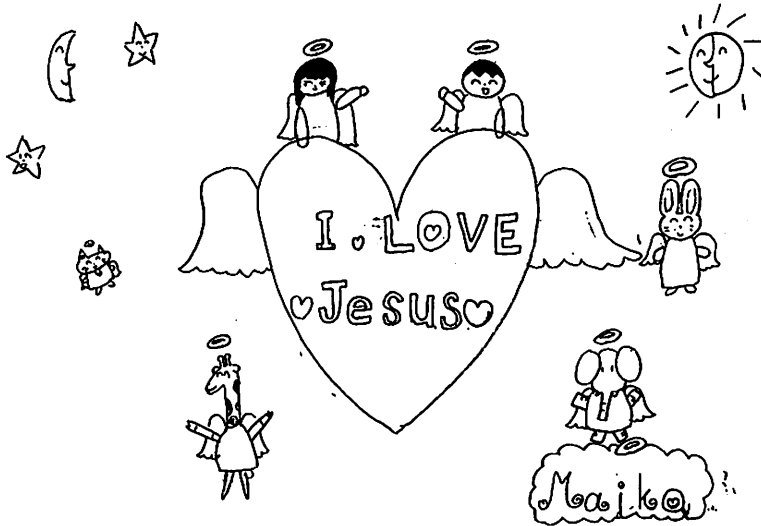
白血病の高橋公次郎夫妻も来られ、証しをされ、洗礼を受けられた。今の教会の場所に移り、昭和三十七年、教会建築が許可され、定礎式が行われた。私は教会建堂式には二度出席したが、あの定礎式の感激は今も忘れられない。会員名簿と私達それぞれの信仰告白文が、カプセルに入れられ、床下に収められた。あの名簿の中の何人が今教会に出席しているのだろうか。高橋公次郎さんは、リビングストーン先生長沼先生の付ききりの介抱であの世に送られカリエスで十六年寝たきりだった。若生なお子さんは、リビングストーン先生の尽力で仙台に移され、歩けるまで回復し、喜びの中に主に召された。西谷富代姉は胃癌の手術が心臓の悪い為出来なかったのに、主の御恵みで、米軍空軍機で輸送された「ペースメーカー」日本第一号をつけて、胃の手術も成功し元気になられ御姉妹で教会に出席された。その後、家が遠いので名取の教会に転出された。多くの人が、この教会の門をくぐり、そして仙台を出て行った。

次の牧師、通木先生の御働きで、鶴ヶ谷に希望園と教会が出来た。そして今、仙台教会は四十年記念を迎えようとして、役員や信者の方々の日々のお働きで、活力ある教会に育っている。感謝です。

この教会設立と同時に仙台に来た私は、主人の定年、再就職の為埼玉に転居し、今は富山で息子と同居している。ルーテル教会は北陸にはないので、仙台教会に籍を置いたまま聖公会教会で聖日を守っているが、仙台に行く度に教会に出席し、その盛衰を見つめ祈り気にかけていたが、この頃は感謝と喜びで出席できるのが嬉し

い。

四十年の間、牧師は度々変わり、牧師館は、駐車場になったが教会は前より立派になった。時は移り、人も少し変わったが、蒔かれた種は必ずよい光と水で成長する。光は主から来るが、水は私達でまかななければならない。私達は、一人一人自分の信仰を深め、よい実を結べるよう、日々祈り、又努力したい。そして、主の御栄光により、益々聖心に叶う教会となりうるように力を合わせて働こう。



“神さまのおまもりの中で”

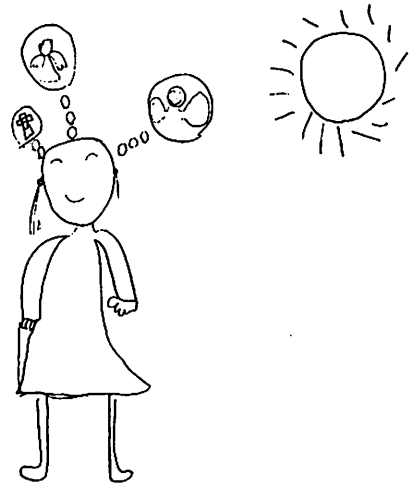
小野寺洋逸

私と仙台教会との係わりはおよそ三六年前です。今振り返って見ると色々な出来事が頭に浮かんできます。そして神さまの導きがあって今日まで歩いてこられた事がはっきりわかります。この教会に来るようになったのは初代牧師長沼先生の息子長沼あきら兄との出会いでした。1961年北海道の高校を卒業東北学院大学へ入学まもなくYMCAへ入部しました。あるピクニックの時長沼あきら兄と知り合いになり家に遊びに来ないかと何度も誘われました。長沼兄の所に訪問したのはそれからまもない頃と思います。そして長沼先生と御家族の方々とも話しをするようになり自然に礼拝にも出席するようになりました。当時の礼拝は会堂がなかったので牧師館で椅子を並べて行われていました、私は牧師館を訪れる度に先生とあきら兄と私と三人で神について論じ合っては口論になることがしばしばでした。それも私の母が新興宗教の“生長の家”の熱心な信者であった為その影響で神の認識に違いがあ

あったのではないかと考えています。

求道生活が三年余り続き 1964 年 10 月宗教改革記念日に受洗しました、自分がイエス・キリストに従って行く決心がついたのはパウロのことばです。ガラテヤ人への手紙 2 章十六節「人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリストを信じる信仰にある」。罪多い自分がキリスト・イエスによってゆるされキリストの愛によって生きていくことができるという事がわかってきたからです。当時長沼先生はよく説教においてもパウロの言葉を力説していた姿を思い出します。

また青年会でもパウロの手紙の勉強会を良く行っていました。そして「信仰と行い(律法)との関係」について、信仰があれば行いはどうでも良いのか、など色々な質問。疑問が話し合われました。私は信仰によって良い行いは義務や強制からではなく喜んで行っているのだと思いました。パウロの言葉は今も深く私の心の中で生き続けています。



花のいのちは短かくて、と云われている昨今私が三十才過ぎた頃から生花に魅せられて始めました。まだその頃は花、枝、葉などの素材をどう生かすか、また水盤、その他用具の使い方もわからないままに華道にチャレンジをする。自分を振りかえって何ひとつ趣味らしいものがなかったので...それではと思い根気よく続けてみようと考え今に至りました。大分花に対する興味も高まり花を生ける基本らしいところが多少理解できた事が嬉しく思っています。実際目の前に材料を置かれると花の向き、枝の動きを直視していくとむづかしくて頭を痛めます。でも練習を重ねるごとに楽しみを覚え更に沢山の方々と触れ合えた事、先輩に支えられたことに感謝します。現在教会の一員として微力ですが四季折々の草花を通して教会に奉仕することを学び自分のやる気を大切にしてお向きに歩みたいものです。

野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。

(聖句マタイ伝六章二十八節)

「キリストの愛に包まれて」

おがわこうき

キリストの愛に包まれて  
私は今、幸せです

あなたが共にいてくださるから  
時には私は、  
目に見えない内なる力を燃えさせたことができる

あなたを再びつかまえた  
もう、あなたを  
誰からも取り去られたくはありません

イエスさま  
どうか、私のからだを思う存分使ってください  
それでなくては、私は、ただの塵にすぎないのでから

あなたに使われるから



私は光り輝くことができる

イエスさま  
私を愛しまくってください  
あなたが内に宿るから  
私は自由なのです

私は翼を得ました  
大いなる懐へ行き来できるのです

イエスさま  
今日という日に来てください  
私の心の内に来てください

"二人は、「道で話をしておられるとき、  
また聖書を説明して下さったとき、  
わたしたちの心は燃えた  
ではないか」と語り合った。"



ルカ伝 24 章 32 節

“「猫ふんじゃった」の主題による変奏曲”

おがわこうき

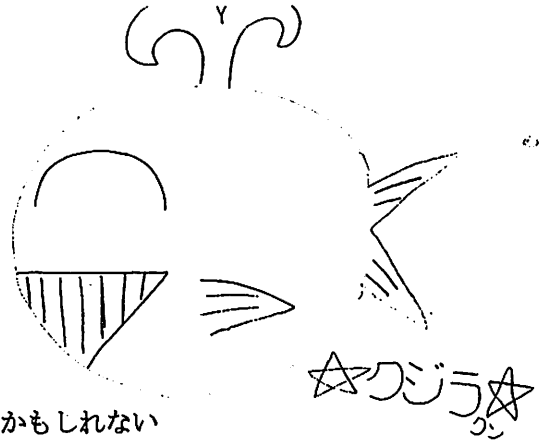
猫ふんづけちゃったら死んじゃってた

野良猫は

大通りで人がごったがえす中  
誰にも見向きもされずに  
道ばたで死んでた  
人知れず死んでた

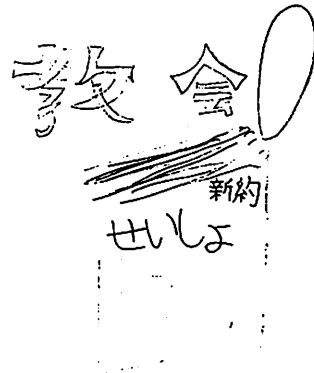
誰が殺したかわからないけど  
ひょっとしたら

ぼくが踏んづけちゃって殺しちゃったのかもしれない



人がごったがえす大通り  
迷子の迷子の子猫ちゃん  
あなたのおうちはどこですか

ここですよ  
わたしのおうちはここですよ  
あなたのその胸の中



さあ、おいで子猫ちゃん  
この冷たい胸の中をあったかくしてね

こうしてニャン子のおうちは見つかりました



「安心おし」

おがわこうき

安心おし

おまえの主が裁いてくださるのだから

たとえ

誰から裁かれようが

真心をもって裁いてくださるのは

おまえの主しかないのだから

だから、おまえは  
おまえの心と体とを裁かなくていいのだよ

“世界と縁側”

おがわこうき

この果てしなく広い世界には  
とてもかなわないけど

神さまは私たちに  
春ののどかな陽ざしの縁側を用意してくださる

そして私たちは  
果てしない世界の只中にあるのだ

“あなたの信仰があなたを救った”

おがわこうき

わたしの心の中は戦争

戦場の只中へ子供が一步一步進んでゆく  
その中心点へと

父親がおそろおそろ手を離したのだ

子供は無防備のまま  
その中心点へと

父親は見守る

イエスは言われた  
「勇気をだしなさい、私はすでに世を勝っている」



子供は戦場の只中へ  
その中心点へ

中心点に立つと光がやって来た  
光は子供を包んだ  
子供は光り輝く

その時から  
子供を軸にして心全体が動いた

調和が訪れた

戦争は終わった

心は神の河の流れにのって動いてゆく

神の光が子供に注がれる  
溢れんばかりの光が  
まぶしい光が

イエスは子供を抱き上げ祝福された



“食べる”

おがわこうき

今日、はえている草を食べなさい  
そしたら明日にたどりつける

“あなた”

おがわこうき

わたし、  
あなた知りません

でも神さま  
わたしたち知ってます

いつかお目にかかりましょう

“走馬灯のように”

おがわこうき

走馬灯のように  
私の思い出が流れる  
ちっちゃな時から、今、この時まで

傷ついたモノクロの無声映画  
フィルムを手に取り  
どのコマを覗いても、覗いても  
いたのだ あなたが  
私といっしょに生きていたのだ



私はみなし児だったのに  
それなのに  
あなたは いつも 私の傍らにいた  
フィルムから溢れるほどに  
あなたは いた

私が泣いていた時      あなたは泣いていて  
私がほほえんでいた時      あなたはほほえんでいて  
私が苦しみの時      あなたは苦しんでいた

ただ ひとつ  
あなたは いつでも  
私を愛してくださっていた

## 私の証 ベケダム・マフロン

イエス・キリストを信じています。彼は私の救い主です。彼は死から復活して、私が彼と一緒に永遠の命を受ける事を約束して下さった事を信じています。どうしてそう信じるかと言えば、沢山のイエス・キリストに忠実に従う信者の証しのせいです。初め、両親はイエス様を信じる事を教えて下さり、主日礼拝、教会学校等を通して、沢山の人のキリストに対する証しを聞いて、信じるようになりました。

子供の頃、或るクリスマスの日の朝、教会の礼拝堂に座わって、牧師の説教を聞いていました。帰って、沢山の素晴らしいプレゼントを開く事を期待していました。牧師は言いました。「イエス様はあなたの為に素晴らしい贈り物がありますよ。あなたは頂きたいでしょうか?あなたは彼に従うべきです。あなたはイエス様に従う為に造られて、彼はあなたを愛して下さい、あなたが彼に従うように望んで下さいます。そうすると、あなたは素晴らしい贈り物を頂くよ。あなたは彼に従いますか?」そのとたんに心の中に何かが起こりました。私はこう思いました。「はい、決めます。従う。子供であっても、イエス様に従うように決める事が出来る。」喜びいっぱいの体験でした。今もはっきり覚えています。

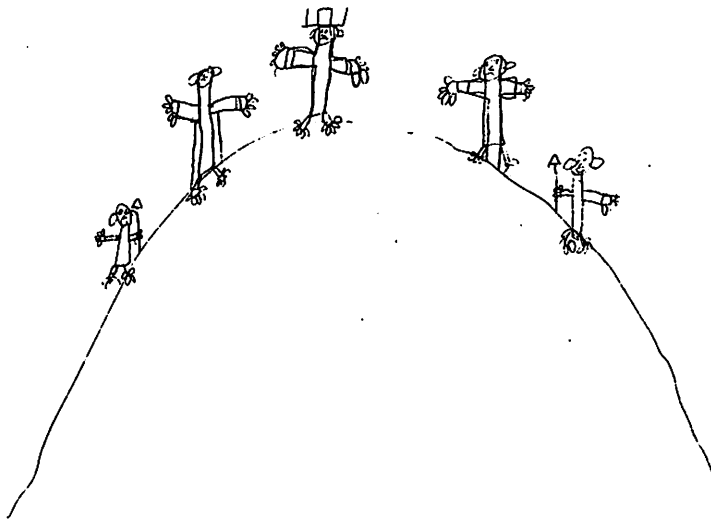
歩みには色々な悩み苦しみや躓きがあっても、イエス様に従っている事を忘れた事があっても、そのとたんの喜びは、去った事はありません。イエス様に従う歩み方を教えたキリストにある兄弟姉妹は沢山います。

この新約聖書からの箇所は、私の希望と喜びの経験を表現します。「私達も又、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡み付く罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないうで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座わりになったのです。」ヘブライ書 12:1,2

### 「ある冬の日の思い出」 阿部冨夫

私が主イエス様に救われ今日までの三十数年が夢のように過ぎさりました。今日まで心の支えとなってくださっています長沼三千夫先生と小泉あや子様に深く感謝申し上げますと共に常に大きな御翼のかげに守ってくださる主の愛に深い感謝を覚えるものでございます。昭和 35 年 5 月チリで発生した地震による津波のため私の

住む宮城県志津川町は大きな被害を受けたのです。家を失った多くの町民は台所付き六畳一間の仮設住宅に入居しました。数ヶ月が過ぎクリスマスの季節がやってきました。災害にあった子供達に何かしてあげられないだろうかと年老いた母に相談し、近くの子供達を集めてクリスマス会を開くことに決め準備を始めたのです。今思い出しても不思議なことです。狭い六畳間に十四、五人子供達と家族が四人、讚美歌をうたい、お話をしてあげたり、子供達の目は輝いていました。母の心づくしの夕食を共にし数時間を本当に楽しく過ごしたのです。その夜私は素晴らしい夢を見たのです。栄光に輝く神様の姿だったのでしょうか私のまわりにはまぶしい程の美しい光で満ちあふれていたのです。あの日からの長い年月、生活の変化や多くの試練の日々でしたが主は共にいてくださるという確信の中に生かされている幸福を深く感じる日々でございます。これからの日々も少しでも人に仕える心で接したいものです。あの日感動を忘れないためにも、間もなく二十歳になろうとする若き日の思い出です。



「無」となりて

高橋千鶴子

寒さの中、震えながら、雨の音を耳にしなが、そして夕日さす、窓べを見ながら、だれもない礼拝室に、祈りにならない祈りを持って、何度足を運んだ事でしょう。「神様、もうどうする事も出来ません。自分の無力さが今、判りました。これまでの苦しみや悩みを、自分一人で解決してきたとの思い上がりや傲慢さを、全

て、あなたに砕かれました。』。受洗して三十年、何か事があれば「何とかしなくては」「主よこうして下さい。ああして下さい」と人に頼り、お金に頼り、一方的に自分本位の考えで事を運んで来た私にとって、それは、どん底に落とされ、生かされていると言う事も忘れ、「死」さえ考えた自分、そして信仰が、もろくも崩れ落ち、今迄、確信して来た信仰の弱さに、何度涙した事でしょう。心の成長、信仰の成長が、何一つ無く、ただただ涙するばかりでした。現実の恐れに負け、いく度、御前に救いを求め、祈りに来た事でしょう。御言葉の一つ一つが、讃美歌の一節一節に、どれほど慰められ、力づけられた事でしょう。そして、この試練、今思えば全て、あなたの愛の内であったものでした。自分の思いは「塵」に等しく、無力なものである事、又、全て主に委ねますと祈りながら委ねきれない私に、ある時、委ねきれないと言う事は、信頼していないと言う事に、気づかされ、信仰の弱さに泣きました。そして、その度主の救いを与えられ、導かれた事でしょう。主の愛と恵みがなければ、今の私は、いなかったでしょう。

これからも、幾度となく、現実を恐れ、ゆらぐ事でしょうが、全てあなたから出たもの、あなたのみ心である事、その時を判らなくとも、全て主が益となして下さる事を、確信し、強い信仰を養って行けます様、主よどうぞ助け導いて下さい。

仙台教会に導かれ、多くの兄弟姉妹と、交わり、讃美出来ました事は、何にも替えがたい事でした。現在、「無」となった私に与えられた道、この道しかなく、それは平安の道である事を確信し、主と共に歩む事と感謝致します。

主よ、ありがとうございます。

ボンヘッファー

大内経子

東京の生活に別れをつけ仙台に移り住んでから早二十四年になります。移りたての頃だったでしょうか、仙台教会の白川先生が訪ねて下さいました。主人が牧師の三男坊ということ、しかもまだ堅信礼を受けておりませんでした。先生は子供達二人の幼児洗礼のことを話され、そのためには母親もクリスチャンである方が…。すなわち私自身の受洗についても話されました。それから月二回から三回、仕事で遅い主人にあわせ夜遅く白川先生は訪ねて下さいました。ルター教理問答、使徒信条、信仰についての諸々の勉強。やがて、主人の堅信礼、二人の子供達の幼児洗礼、私の受洗、家族四人、夫婦の新しい出発がありました。が、当初、私は牧師の家族につながる一員として、こうあらなければならないという気持ちに先に立ってクリスチャンとは何と窮屈な…。という思いで頭がいっぱいでした。



ある時、主人の母から数サツの本をいただきました。その中の小冊子ボンヘッファーの「交わりの生活」あら変な題名と思いながらしばらくはそのまま本箱の片すみへおしこんでいたのです。でもなにげなく(今思うと、神様の御配慮のあったことを確信

しております。)手にし読みあつたらもう一気に最後の頁までいってました。私を頑にしていたコチコチの硬枠はこの小さい一サツの本で脆くも崩れ去りました。信仰は個人の問題であるということ、神様は気長に、右往左往する私のことを見守って下さっているということを強く感じました。名取市に移り、日曜礼拝欠席常習者となった現在でも"主のよき力に守られてボンヘッファー一日一章"は、おやすみ前の日課にしております。その後、ボンヘッファーはヒトラーの暗殺を企て、失敗し処刑されたという事実を知り、驚愕すると共に、ボンヘッファーも人間だったという親近感を覚えております。主の御恵みの中にあると感じる日々、これにまさるものはありません。

ただ感謝。



青いあおい南の海です。

海の底に一つの貝が住んでいました。毎日暖かで、とても楽しく、友達とお話をしていました。

ある時、ひよっとした弾みで、何かが体の中に入ってしまった。ゴロゴロして痛いのです。「ああ痛いなあ。何とかこのゴロゴロが無くならないかなあ。」貝はネバネバしたものをを出してそのゴロゴロするものを包みはじめました。すると少しつるつるになりましたがまだゴロゴロします。貝は毎日毎日つるつるさせる為にゴロゴロするものにネバネバをからめて一生懸命に努力しました。明るい夏のお昼です。貝は陸に引き揚げられました。人々はその貝をあけて「アッ」と声をあげました。素晴らしい真珠があったのです。一九七七年青森長島教会の CS 夏期聖書学校で、受持ちの三年生分級で、めいめいミニブック作りをした時の私の手作りです。

神様は私の痛みを通し悩みを通して真心から祈る者として下さいました。まことに「みことばは事柄となる」は真実です。造り主なる神様は私共を捨て給いません。今、私の悩みを救い主イエス様におゆだねして、祈りつつ、光が与えられる事を信じて歩んで参りたいと願っております。

### 伊藤秀志

今から四十数年前の真夏の午後八時頃の時です。勤務の帰りが遅りなり、ほっとした気持ちで、青森駅通り新町商店街を、歩いていると、前方の街角から、優しいメロディーにのって、歌を唄っている人達が、提灯の様な灯りを持ち、立っているのです。前を通り過ぎ様とすると、外国人の方が、どうぞと云って、二つに折った紙を呉れました。立止って見ると、「すべて重荷を負うて苦労している者は私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」と書いてありました。彼は云いました。「あなたイエス・キリストを知っていますか？」私は詳しくは知りませんが、彼は一度私達の集会に来なさい、よい訪れがありますよ、よしそれでは行ってみようとして約束し、以後数回通いもっと詳しく知る為子供の通った幼稚園のある教会に行きイエス様が、私達罪人の為に、父なる神様から遣わされ救い主であり、罪の贖いとして十字架につけられた事を学び、聖書を読み、牧師先生の話聞き、二年後に浅い信仰でしたが、洗礼を受ける事が出来ました。そして現在に至り、仙台市に移転後、昨年日本福音ルーテル仙台教会に転籍させていただき、ベケダム牧師先生初

め兄弟姉妹に迎えられて、礼拝を守る事が出来、又仙台教会四十周年記念を祝う事が出来て、御恵みと導きによるものと感謝しております。

### 私の好きな聖書と讃美歌

村田 いずみ

私は何度この聖句をさげんだことでしょう。

「私の神よ、私の神よ、何ゆえに私をおみすてになるのか....」(詩編 22)

「私の人生はいつも....主のみもとに.....」の讃美歌と共にあります。

病気の時、苦しい時、はげまされ、そして支えられました!

# ♪ ♭ 主よみもとに近づかん、のぼるみちは十字架に  
ありともなど悲しむべき、主よみもとに近づかん

♭ ♪ # さすらうまに日は暮れ、石の上のかりねの  
夢にもなお天を望み、主よみもとに近づかん

# ♪ ♭ 主のつかいはみ空に、かよう梯のうえより  
招きぬればいざ登りて、主よみもとに近づかん

♭ ♪ # 目覚めてのちまくの、石を立ててめぐみを  
いよよせつに称えつつぞ、主よみもとに近づかん

# ♪ ♭ うつし世をばはなれて、天がける日きたらば  
いよよちかくみもとにゆき、主のみかおをあおぎみん

(讃美歌 320)

### キリストへの道

成田 しげこ

ふりかえると、私の歩んできたキリストへの道は一直線に続いているのではありません。所どころ途切れています。しかし、いつも立ち帰りを与えられてきました。

仙台教会は40周年となりましたが、その間この地に遣わされて献身される牧師・宣教師の働きを通して、その背後に「生ける神」を垣間見ることがよくありました。

しかし、垣間見るだけで直接のキリスト体験のなかった私に大きな出来事が起こりました。この4月、乳がんを告知されたのです。同じ病気で亡くなった女性ジャーナリストの闘病記を読んだことがあるのですが、彼女の場合は手術後に直発と転移をくりかえし、最後には小脳にまで転移し壮絶な死でした。衝撃をもって読んでいたので自分自信が同じ病であることを知らされたときは、一瞬頭の中からすべてのものが消えてしまったような感じでした。空きベットがないため3週間家で待機しましたが心の揺れ動く苦しい時でした。入院して下さいという電話を受けたときは、刑場に曳かれていく何かのように心の中は荒涼としていました。種々の検査が済んで手術の日も決った頃、教会の人たち、続いてベケダム先生が来て下さって祈ってくれました。メスを持つ人の上にも神の守りがあるようにと祈ってもらいましたが力を与えられました。私はこの時はと我に帰りました。イエス様が共に居て下さるということを体の中から感じたのです。手術室に運ばれていく時は恐れも不安も全然なくて、すべてを神のみ手に委ねるという気持ちでした。

手術後の経過も順調で体力の回復を待っています。祈って下さった教会のみなさん、ほんとうに感謝しています。神さまは「堪えられない程の苦しみは与えられない」と手紙で励ましてくれた人、がんに効く薬草を山から採ってきてくれた人、心慰められる本を持ってきてくれた人、もっとよい所で治療できないかと情報集めに協力してくれた人、こういう教会のみんなと主にあって連っていることを実感しました。このたびの事は、神の試練であると同時に恵みも備えて下さったと感じています。



## 長島慎二

わたしは、重度の精神薄弱児であった兄に与えられた神の栄光を知ることもなく、罪のなかに生きていました。この世では白い目で見られなければならなかった兄の故に、わたしは人を憎み裁いたのです。しかし、わたしの心は晴れることがありませんでした。他人を裁きながら自分自信を罪に定めていた(ローマ書 2:1)からでしょう。

ユダヤ社会においても、病気や心身の障害は両親や本人の罪の結果であると考えられていましたが、イエスは障害者を罪の束縛から解放し(ヨハネ伝九章)、生きる道をお与えになりました。たとえ障害を身に負う者であっても、神の栄光を顕すための器として備えられたものであることを、聖書は教えています。わたしは、キリスト教主義の大学に勤めていますが、会議の冒頭で読まれた、このヨハネ伝の箇所により救われました。

また、イエスは子どもや小さな者を愛され、光を与えられます。「わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」(マタイ伝 18:5)。この聖句により、わたしの兄は、わたしに現れたイエスであったと観ることができるのです。

この世では、誰にも認められずに天に召された兄が、いま主により光を与えられ、イエスを通してわたしの心に復活しました。わたしの心が解放されたのです。そして、兄に与えられたこの世のつとめのひとつが、世のすべての人のために自らが最も小さな者となられた方、わたくしたちの愛する主イエス・キリストとの出会いをわたしに得させるためであったことを知ったのです。

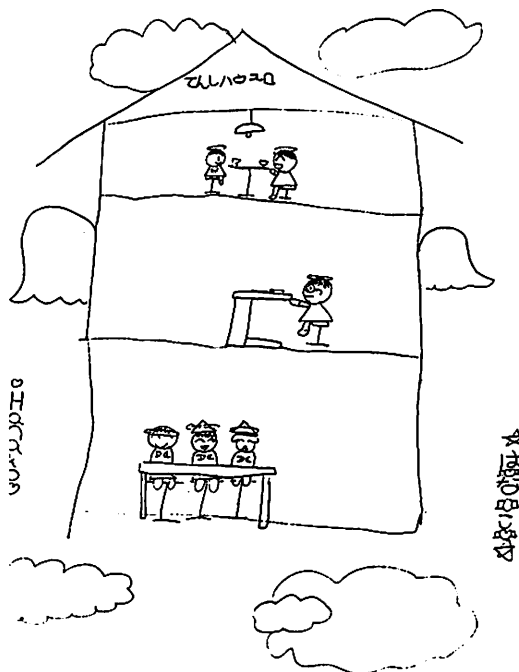
あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉いものである(ルカ伝 9:48)。

「祈り」

中村和子

仙台教会 40 周年記念の私の証しを述べるにあたって何について書こうか考えが出て来ませんでした。そして最近になって私の信仰生活を支えてきた"祈り"について書こうと思いました。でも今から述べる"祈り"は私自身が祈った"祈り"ではありません。私はある時期教会へ行けなくなっていました。そのことを知ったある方が、私の家へ来て心から私の為に祈ってくれました。きっとその祈りは神さまのみ心にかなった祈りだったのでしょう。私は自然に教会へ行けるようになったのです。私自身、今までの信仰生活の中で神さまに何度いろいろな祈りを祈ったことでしょう。

かなえられる祈りもあれば、かなえられない祈りもあります。でも私は祈り続けます。そして神さまは私に必要なものであれば(私の目からみてではなく神さまの目からみて)きっと祈りはかなえられるのだと今は思っています。"祈る心"を与えて下さった神様に感謝します。



「終わりまで堪え忍ぶ者は救わるべし」 西宮弘

一七八九年の前後を生きたフランス人は羨ましいな、と若い頃には時々思った。歴史の大転換を目撃することができたからである。ところが九十一歳の私の人生は、戦争に追いかけられた前半と、戦争を反省し、これを排撃する後半と真二つに分かれた。その前半の中でもキリスト教に触れる機会の早かったことを、わたしは感謝する。それは小学校五、六年生の時だった。茨城県の草深い小学校で、山室軍平先生が、講演された。私はその時の講話を今でもよく覚えている。私が小学校の高等科に進む頃には、教会堂が建ち、私は日曜学校の模範生だった。「タバコを吸わず、酒吞まず…」などとの歌は、今でも実践している。

小学校を卒えると直ちに上京、昼は働き、夜は夜学の生活だったが、神田の街角に立っていた山室軍平と大書した、説教の看板に目を見張った。懐かしさの余り私

は救世軍の門を潜った。昼夜の任務と救世軍の諸行事は、かなりの負担だったが信仰生活は段々充実していった。

やがて中学卒業の資格を、検定試験で手にしたので、浦和高校に進み、三、四人の友人と「浦和YMCA」の提灯を下げて、毎週一回夜、浦和の街角で路傍伝道をやった。後述するが、昔私は仙台の繁華街で、毎日反戦平和を訴えていた。その原点が浦高時代にあったかと思うとほほ笑ましい。浦高から東京神田の救世軍には、救世軍の制服制帽で、汽車で通ったのだからかなり勇敢だった。

辻説法はもう一つのエピソードを産んだ。現在は名古屋郊外に住む独立伝道者服部治先輩とのめぐり合いで、六十年前の青春時代を語り合うことができ、思い出は尽きない。

さて私は三年後には東大に進んだが、時は経済恐慌の真最中。マルキシズムの嵐が吹き荒れ、秋田雨雀の無神論なども多くの学生を魅了した。のみならず天皇を「真人神（あらひとがみ）」と唱える側から、キリスト教一般におおいかぶさる暗雲は、すこぶる濃く、重く、教会に通う者は肩身が狭かった。

高校時代あれ程情熱をたぎらせた私は、絶えず揺さぶられ続けた。マルキシズムの攻勢に対し、友人たちは理論的究明に専念する者と、はげしい弾圧に抗して闘い続ける者と、二派に分かれたが、そのどちらにも自身の持てない私は、私と同じ貧しい境遇に喘ぐ人たちのために生きたいと重い、社会事業に身を置いた。しかしそれは生きる目標を見失っての逃避が本音だった。と今にして思う。唯それにしても、絶えずキリストの周辺に生き続けたこと—と言うよりはキリストが私を離さなかったことは、感謝に耐えない。

過般の戦争は、一九三一年九月十八日、日本軍自らが満鉄を爆破したのを、中国軍の仕業と見せかけて、国民一人残らずだましたまま十五年戦争を戦わせ、三百万の同胞を死なせ、これの数倍なるアジアの民衆の生命を奪った。その責任は甚だ重い。しかし全国民をだました政府も天皇も一言の釈明もしない。そして終戦の翌年初頭に神格を否定して、「人間天皇」に還ったはずの天皇は、その後これを修正して（一九七七年八月二十三日）再び九重の奥深く、権威と権力の座に戻ろうとしている。

私は二回、最初は戦時中南方の占領地において行政事務を担当したため、次は国会議員として一叙勲の通知を受けたが、いずれも拒否した。前者は戦争否定の立場から、後者は政治家を優遇する、政略的姿勢に猛反対だったためで、同時に、この世の権威、権力者が人間の値打ちを十数段階に格づけする僭越さに抗議し、制度そのものに強く反対した。

国会議員などはたとえ野党の立場でも、特権階級であることに変わりはなく、し

たがって私の本物の人生は、私の全人生の十分の一でしかない。だから私は時間が欲しい。時間が、時間だけが欲しい。その私にとって、風邪で寝込む贅沢が絶対許されないのは当然だし、私はすでに七十数年そんな贅沢は一切しなかった。風邪で休むなどとは、神様への反逆だと、自分には言い聞かせてきた。

私はあの戦争の犯罪性を見抜くことができなかつた不明を詫びて、これからは贖罪に生きたい。「贖罪」などという大げさだが、すでに十五年を過ぎた辻説法を継続するだけだ。もっとも仙台の冬は寒いから、荒れ狂う吹雪の中で叫んでいると、傍目にも贖罪らしく見えるかも知れない。しかし残念ながら、私は寒さには不感症なので、悲壮感は一向に湧かない。と同時に、やらねばならない事なら、何事によらず愉快にやろうとの主義だから、断食に対するイエスの教え（マタイ六・十七）の通りに楽しくやりたい。貧しい境遇に生きた私の思いとして、標題の聖句を掲げたが、書き上げてから、ふり返ってみたら、永く堪え忍んだのは、私ではなくて、神様の側だったと気づいた。

### 私の証し ナンシー・ベケダム

クリスチャン家族に生まれた恵みを頂いて、毎週日曜日教会学校と礼拝に出て、キリストの話を聴きながら 育てられました。そういう場合、本人はいつか自分一人で両親が信じる神様を信じるかどうか、決めなければ ならない時が来るでしょう。私は高校三年生の時、その決定の時が来ました。心をこめてキリストを信じるように選びました。ある若い信者の夫婦の信仰生活を見ていた事を通して決めました。彼らの人生の問題解決は聖書から 来て、私が分かった言葉で彼らが祈って、毎日聖書を読む事について彼らが話しました。彼らの人生と信仰を 見る事を通して、私は個人としてキリストに知るようになりました。

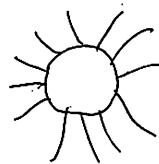
キリスト教の大学に入って、他の沢山の信者に合って、信仰の励みになりました。同室者、友達、私が参加したクリスチャン青年音楽団のメンバー。また、就職して誰も知らない市に移った時、神様はクリスチャン の同室者と活発な青年が多い教会を与えて下さいました。

日本にも同じ事は起こりました。1983年に英語教師の短期宣教師として初めて日本に来た時、同じアパートでは、同歳の若い女性のクリスチャンが居て、友達になりました。そして、他の沢山の日本人の信者に合った事があり、彼らの信仰生活を見て、励みとなりました。

こういうクリスチャンから、絶えず祈る事、毎日聖書を読む事、キリストが行動



したように信仰生活をするように学んだ事があります。時々この三つの分野に失敗しますが、毎週集う兄弟姉妹は、私に以上の事を思い出させて、皆様に感謝を言いたいと思います。



## 長沼三千夫

仙台教会が四十周年を迎えると言うので只おどろくばかりであります。日本福音ルーテル教会は九州の佐賀や熊本や福岡に外国からの宣教師によって多くの費用が用いられて伝道が始まりました。今度の戦争が終わってからは更にルーテル系の宣教師が宣教を開始致しました。例えば初め広島県を中心とする宣教師団体、静岡県を中心とする福音ルーテル教会と言われる教会又その他のヨーロッパ系の教会、長野県や北海道の各地方都市や農村にそれぞれ伝道が開始されました。それ等の教団は後に合同して伝道が行われました。然し仙台の伝道はこのルーテル系教団の応援を受けることなく伝道が行われました。全くの独立独歩のあゆみでした。これ等の諸団体の中ではいろいろの協議もあったようでした。そしてその中の話し合いで日本福音ルーテル教会は千葉県以北には伝道をしないと話し合いすらあったと言うことでした。

仙台と言う都市は北の方では北海道の札幌に次ぐキリスト教都市と言われて居りました。私共日本福音ルーテル教会が伝道をしようと思って居た時は既に日本に伝道して居る諸教会が強力な伝道を開始致してました後に大学となった東北学院や宮城女学院も明治の時代から経営され伝道が行われて居りました東北学院には神学校もありました。古い城下町でありましたが、しばしば讚美歌の声などもきこえて来る古いキリスト教都市の一つでした。日本に多くの伝道されて居る教会も多く伝道を中止した教会もあったと言うことでした。今私達の兄弟教会である日本ルーテル教団も伝道を始めたが、余り教会教派の数が多くて遂に中止をされたと聞きました。以来この系統の教会はありません。(仙台のルーテルアワーの放送もして居たと言う話を聞いて居りました。)

このような土地に私と家族はやって来ました。仙台も戦災都市で住宅は少なく私は岸先生と二、三度やって来家探しをし、その結果北五番十三番地の或貸家を借りて伝道を始めました。1957年の8月、昭和三十二年8月でした。仙台に来て二週間目の日曜でした。その時礼拝に出席された方は小泉あや子姉であり、此の姉妹は本年の二月より御主人が東北大学の教授として赴任されて居られました。幸いお住まいが教会に割合近く、大阪のルーテル教会から此の地に転宅転任されておりました。仙台ルーテル教会は此の姉妹と私共の家族だけで第一回の礼拝を致しました。これが記念すべきスタートでした。仙台教会の伝道の旗上げでした。以前東京教会牧師の本田先生が集められた各地のルーテル教会で受洗された古い会員の方は誰もおいでになりませんでした。

こうしてルーテル教会からもミッションからも全く経済的に伝道の為の援助のな

い団体の活動として援助のない中を伝道活動が始まりました。皆さん覚えて下さい。日本人の誇りであります。(この次は小泉姉と阿部兄について「YWCA」を借りて集会をする。) 小泉あや子姉は頂度この年御主人の転任と共に仙台に移られました。新しい伝道所のためには此の上ない大きな援助をして下さいました。会計委員として初めから伝道に御協力下さいました。

頂度此の頃阿部和男兄が教会に出席されました。彼は東北大を卒業して司法試験の勉強のため北海道から仙台に来ました。北海道で日本ルーテル教団の洗礼を受けて居ました。彼は毎日曜日自分の下宿に居る若い受験生を引率して教会に出席しました。そのため教会の出席は多くなりました。こうして段々と増加しましたので近くにあった「YWCA」の建物を日曜日の午前中だけ借りる事にした。朝早く長沼あきら君は「YWCA」に行き集会の準備をしました。こうして段々と出席者が増えました。

頂度この頃始めて宣教師のリビングストーン一家が東北地方のために赴任されました。長沼牧師にとってはこの上ない力を与えられ、同師は後に仙台市郊外塩竈市や多賀城市方面にも伝道が行われました。此の伝道の実として後程ルーテル神学校に入学されて我が教会の教職となられた落合兄はここの出身であり、同宣教師の帰米中毎週日曜日の午後長沼牧師夫妻が代わって塩竈に出かけました。更にこの頃から古川地方に伝道のためリビングストーン御一家が出かけられ、御夫人は幼い子供さんを連れて出かける、或る晩は地ふぶきのはげしい夜などありました。これには小野寺兄や五島姉等も出席して共に礼拝が行われました。こうして徐々に各地に広がりました。

頂度この頃から「ルーテルアワー」のカードも人々が学ぶようになり、牧師は訪問等で多忙になるばかりでした。またこの頃全国的に大学さうどうが起き教会に出席する学生の中にも多少の影響はありましたが、大学内の川内校舎では長沼牧師は聖書研究を続けました。以後ルーテル熊本教会から招きを受けました。私は仕方なく残念ながら仙台教会とその付近の働きを止めました。残念でなりませんでした。

書くことはまだまだ沢山ありますが、紙数に関係があるようですから、又いつか話すことにして居ります。

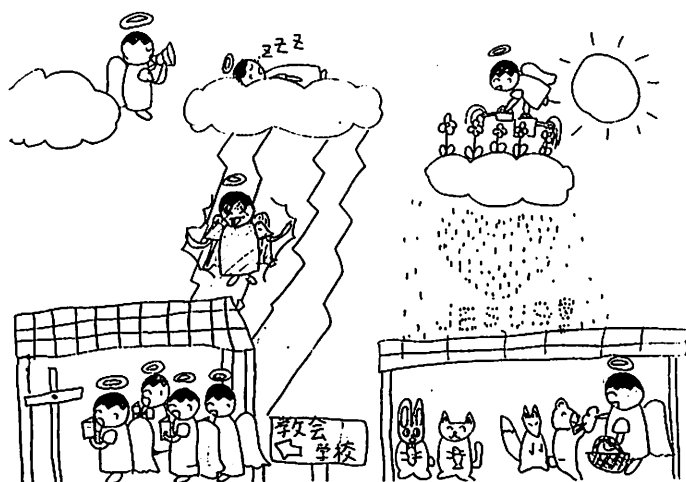
私にとっての仙台は、僅か一年の歩みでした。クヌートソン宣教師夫妻との共同牧会は鶴ヶ谷希望園を含めたもので、良きにつけ、悪しきにつけ、決して忘れられないものとなっています。

路地に入った処に教会があり、これこそ先輩の牧師から聞いていた。耶蘇時代の教会の立地条件(質屋と同じく、教会が表通りにあると、人の目が気になって入りにくいので、わざわざ路地に入った場所を選定していた)そのままだと感じいました。と同時に、新しい宣教地のきびしさを肌で受けとめ緊張したことを思い起します。牧師館も二階建て、私たちにとっては住みやすい住宅でした。

教会活動では、家庭廻りで聖書研究と婦人会をしたことが、とても新鮮な思い出となっています。数名の方々がいつも笑顔で参加され信仰に生かされている喜びを分け合うことが出来て楽しいものでした。また、雪の中洗礼準備のために〇家に通ったことも思い出となっています。鶴ヶ谷への往復、市内の諸教会の先生方とエキュメニカルな神学の学び、ミッションスクールの特伝、宮城刑務所での矯正施設伝道等。僅か一年でしたが意外と多くのことが心に残っています。

東北の地の伝道は、信州とはまた違ったものを必要としました。忍耐しながら、じっくりと待ち、一緒に歩むことを学びました。今年で宣教 40 周年を迎えられるそうで、これからの宣教が益々神さまの導きと祝福を添えられるように、心からお祈りします。

(箱崎教会牧師)



## 藤井邦夫

創立 40 周年おめでとうございます。私は仙台には 4 年半いましたが、仙台教会に在任したのは 1976 年 4 月からの 1 年間でした。思えば 40 年の歴史の中間点でした。私にとって牧師となって最初の赴任地でしたので印象の深いところです。大きい通りから少し入った教会、古い建物でしたが、私達夫婦にとってはとても広い牧師館を今も思い出します。最初のうちはそこから鶴ヶ谷の希望園に毎日通ったこと、色々な家庭を訪問したこと、森郷での修養会など色々な方のことが、20 年も経っているので少し霞がかかっていますが思い出されます。また、仙台の美しい街、松島、近隣の温泉地等も思い出されます。

私が赴任したときは教会が困難なときでもありました。しかし、そのときの総会資料を見ますと次のようなことが書いてあります。「このような状況にあると同時に、神が着実にその働きをなされ、又、会員がそれぞれの働きに参加しておられることに感謝せずにはおられない。活動費や協力金の支出が少なかつたとはいえ、教会会計が黒字であったこと。会堂の掃除、献花が皆の協力でなされたこと。集会室のペンキ塗りが皆の奉仕でなされたこと。大内御一家と菊田兄が受洗されたこと。木村兄が転入され、青年会会長として奉仕されたこと。まだ聖日礼拝に十分に出席できないといえ、家庭集会や定例集会において充実した婦人会活動がなされたこと。鶴ヶ谷で長年の念願であった礼拝が開始されたこと。CS 活動が充実し、発展していること。希望園でスポーツ大会がもたれたこと。教会に看板ができたこと。これらのことは苦難の中にあっても、神の働きがなされ、一人一人の働きがなされていることを示しており、霊的な教会が存在していることが示されている。」

これからの教会の歩みと教会員一人一人のうえに神様の祝福をお祈りします。

(宇部・厚狭教会牧師)

仙台教会の皆様へ

太田一彦

この度皆様にご挨拶をお送りする機会が与えられた時、私は按手を受けてから、12 年の月日が過ぎたことをあらためて思い起こしました。思えば、12 年前の冬、教師試験を終えたその日、共に同じ目的を持って学んできた 5 人の仲間としみじみと一緒にすごした数年間を思い出しながら、いったい自分たちはどこに遣わされるのだろうかと話したことを昨日のこのように思い出します。そしてやがてそれぞれの任地が決まり、私は仙台教会で牧師としての人生のスタートをきることになっ

たあのときの気持ちを 12 年を経て今はっきりと思い出すことができるし、またこのご挨拶を書きながら、12 年ぶりに思い起こしています。

それから 7 年の間、皆様と共に生きた日々を思い起こしながら、今心のうちにあることは、私にとって仙台教会が牧師としての人生の原点になっているということです。私は、皆様と共に牧師としての人生のその始めを過ごしたことに、本当に心からの喜びを感じ、主に心から感謝をしています。仙台教会で私は子供たちを与えられましたが、よく子供はその人生の始めの数年間が人格の形成に決定的な影響を与えとも言われますが、私にとっても同じこと、仙台教会での 7 年間で、牧師としての歩みの原点になっていることの重さと、また幸いを感じています。

牧師として尊敬していた内海革先生が、私の前任者でしたが、その仙台教会から多くのことを学びました。このことも私にとっては、大きな幸いだと思っています。そして西宮先生との出会いも、私にとって一人のキリスト者として生きることにおいて、大きな影響を受けました。そして日々の交わりの中で触れた、皆様お一人お一人の信仰が、私の力となっています。

おそらくあと 35 年の牧師としての歩みが終わりに近づいた頃、私の中にあるのは今と同じ気持ち、そして思い起こすのは仙台教会のこと、そして皆様のことだと思います。仙台の美しい街並も私は生涯忘れてしまうことはないでしょう。

主に従う歩みはこれからも続きます。私も、皆様も。互いに祈り合い、主に従う人生を共に生きていきましょう。

(都南教会牧師)

非エサ化伝道

自由キリスト教会牧師

通木一成

雨が激しく屋根を打ち、アスファルトに横たわる小石を流しつづけたあけがた、私は、「東北開拓伝道」の重い使命を背負って、助手席に乗せた妻と共に、日本福音ルーテル仙台教会に着任した。下町にひっそりと佇む小さな仙台教会・・・それは、虹のような美しい輝きをもって、私に迫って来た。そして、今、公務員として、教師として、新聞記者として活躍している若い力が、無限の夢と希望を・愛する喜びを私に与え、それが、私を決断と行動へと誘った。

三年後に、「希望園」は誕生した。その日は、小雨が降っていた。私が課せられた「東北開拓伝道」・・・それが、ちっぽけな"保育園"であることを知った日本の多くのルーテル教会のクリスチャンの方々が、失望と落胆のうちに私を非難されたことに記憶を新たにしながらも、そこには、人知でははかり知ることができないとて

つもない大きな力が、一人の人間を、一つの教会を動かしたことを告白せざるをえない。

五年後に仙台教会を去り、日本福音ルーテル蒲田教会の招聘を受けて、東京へと赴任した。子どもが二人、家族四人の旅、やはり、雨が降りしきっていた。それは生きる勇気を与えてくれる雨であった。その一人は、大学をイギリスで過ごし、日本福音ルーテル神学大学で二年間学び、清重尚弘学長から按手を受け、今は、私の教会を牧師として手伝っている。

二十数年たった今、仙台教会から原稿の依頼があった。すでに日本福音ルーテル教会の牧師を辞職している私が、"いまさら・・・"との思いからお断わりしたのではあるが、たつての希望から、いやいやながら筆を運んでいる横浜の今、激しい雨がしたたかに屋根をたたき、その音は神の声となって私の全身を聖書の中へとねじり込ませようとする。

雨よ!降れ!

人の飽くなき欲望を押し流せ!

聞く耳がある者は、心を開くがよい。神は、正義と愛をもって私たちのまっただ中で、生きて働いておられる。

来年、二十周年を迎えようとしている「ちとせ保育園」・・・私は、その社会福祉法人の理事長として、また、園長として、私に課せられた神の命令に従って生きようと努力しているが、それはまた、仙台教会の延長線上に私がおかれていると堅く信じている。

### エルセ・クリステンセンとクレステン・クリステンセン

いともとうとき主はくんだりて、  
血のあたいもて民をすくい、  
きよき住まいをつくりたてて、  
そのいしずえをなりたまえり。  
讚美歌 191、1。

四十周年を迎えられ、おめでとうございます。この四十年の十分の一にあたる四

年間を私たちは礼拝を行い皆さんとご一緒しました。共に歩み、共に働き、共に笑い、そして時には共に嘆きました。四年の間私たちは、キリストにおいて、ひとつになる方法をどんどん学びました。キリストの体になるように選ばれた会衆であったかを、もっと深く理解しました。仙台教会は会衆のものでも、日本福音ルーテル教会のものでもなく、私たちの主イエス・キリストのものであることをどうぞ、忘れないでください。

"イエス・キリストこそ、その礎となりたまえり。"

この言葉を思い出しながら、キリスト者として共に歩んでください。仙台教会が、あなたにとって、最も大切な場所であることを他の人々に示してください。隣人のために仙台教会を平安と喜びが見つかるオアシスにしてください。通り過ぎたり、訪れる人々がこの場所は神のものであることがわかるようにいつも美しくしておいてください。これは、イエス・キリストへの感謝を表すひとつの方法です。いつも、溢れる喜びを皆に伝えましょう。

有名なイギリスの神学者レスリー・ニューピギンは語っています。若かった頃、インドで宣教師として働いていた時、かれは何度も夜明けまえに出発しなければなりません。彼と仲間たちはしばしば、西の方へ旅をしました。その時、彼らは東へ向かう旅人の顔に日の光が反射するのを見ました。ぼんやりとして見えなかった旅人の顔が朝日に煌いてだんだん明るくなっていくのを見て、彼は"イエスは世の光である、私たちも世の光だ"と勇気づけられたのです。

仙台教会の皆さんにも、世の光が反映しますよう、祈ります。"起きよ光を放つて。"

あなたを照らす光は昇り主の栄光はあなたの上に輝く”。イザヤ書 60:1

((仙台教会の思い出))

横浜ルーテル教会牧師 内海革

仙台教会の宣教 40 周年を心からお喜び申し上げます。戦後のキリスト教ブームの中で伝道をはじめた教会は数多かったのですが、多くは「教会になり得なかった教会」に終わりました。その中で仙台教会の今日があることは、特に喜ばしいことです。これは神の恵みの賜だと思えます。さらに御言葉の宣教に努めて下さい。

5 年間の旧西ドイツ滞在から帰国して仙台に赴任しましたのが 1980 年でした。はじめは鶴ヶ谷教会、これは保育所希望園と兼務でしたので、保育所の諸問題との取り組みに忙殺されて、牧師の本務はおろそかになりました。滞独中に計画しておりました旧約聖書の講解を行うことが出来たのは、82 年に仙台教会に移ってからで



した。この時から日曜日の礼拝ではガラテヤ書、ピリピ書の講解説教、週日の聖書集会では第 2 イザヤ書を講解し、一緒に聖書を読んで参りました。この期間は楽しい日々でした。この時、一緒に聖書を読みました方々とは今も交遊がつづいております。ドイツに参りますまで発行しておりました「黙示」というパンフレットを改め、「仙台通信」として再刊したのも仙台教会時代でした。この「仙台通信」の読者は、現在の「横浜通信」の読者であり、今も交遊がつづいております。これは御言葉を媒介とした交遊独特の楽しさを今でも与えてくれます。

私が仙台教会を転出する際には、太田一彦先生を指名して、後を託しましたが、先生のお働きは大きかったと思いますが、今後も礼拝生活を中心に据えて、「時がよくても悪くても(たんとんと)御言葉を述べ伝える教会」(第 2 テモテ 4:2)、「神の言」を媒介とした交遊がつづく教会を護り通す、そのために必要な霊の力と肉体的な力が与えられるように祈っております。私の仙台在任期間は、前人者、杉山晴吉先生との共同牧会の期間も含めて 5 年でしたが、牧師の本務を尽くすことに於て楽しい時期であったことを記してご挨拶に代えます。

## 仙台教会からのプレゼント

落合成光

教会創立四十周年おめでとうございます。

私は中学一年の時より、大学卒業までの 10 年間、最初の三年間は塩釜(下馬)集会で、続く七年間は仙台教会で信仰生活を送らせていただきました。大学卒業後は、神学校での勉強のため仙台を離れ、牧師となり、初任地は鹿兒島教会、次の赴任地は現在の下関教会で、仙台より離れていますので随分ご無沙汰、また失礼しておりますが、一番思い出に残っているのは、やはり仙台教会です。

仙台教会時代の思い出は本当に尽きず、書き始めるとキリがないのですが、絞りに絞って三つ挙げるとすれば、次のようになるでしょうか。第一はオルガンとの出会いです。オルガニストの G 姉が結婚され、以前ピアノを少し習ったことがあった私が奏楽の責任の一端を担うこととなりました。そのため教会で行われていたピアノ教室でピアノレッスンを再開し、大学(東北学院)では、パイプオルガンのレッスンを続けました。第二は西多賀ワークキャンパスで毎夏行われておりましたワークキャンプへの参加です。私にとりまして、障害者の方々との初めての出会いで、新しい世界が広がるきっかけとなりました。第三はルターとの出会いです。私は、高校生の時よりルターの著作を読んでいましたが、大学ではルター研究者の倉松功先生と出会い、豊かな学びの時を得ることが出来ました。そして、この三つのことは

それぞれ「礼拝音楽」、「ディアコニア」、「ルター」として、牧師としての私の研究テーマ(ライフワーク)にもなっているのです。

仙台教会は、確かに規模としては大きくないかも知れません。しかし、私が仙台教会よりいただいたものは、何物にも代えがたいものであり、このプレゼントは私の中にしっかりと生きています。

(下関・益田教会牧師)

### 日本福音ルーテル教会東教区教区長 渡辺純幸

仙台教会・宣教40周年おめでとうございます。

仙台教会は、主の導きによりこれまで40年歩んでまいりました。その歩みは、多くの教職と信徒のお祈りと お支えによるものであったであります。そしてそこに主の恵みと救いの業があったことでしょう。神さまの 大きな力を感じずにはおれません。

「祈りの手」で有名なアルプレヒト・デューラーは、若き日、志を同じくしている年上の青年と共同生活をしておりました。しかし、二人とも貧しく好きな絵を書くどころか、その日の食事も満足に得ることが出来ませんでした。そこで、年上の青年は、「このままでは、絵を学ぶことが出来ない、どちらか一人が働いて、生活を支えようじゃないか、その間、一人は好きに絵を書き、学んで売れる絵が書けるようになったとき、一緒に絵を 書こうじゃないか」「僕は考えたんだが、デューラー、君の方が絵の才能がある、僕が働くから絵を書いてくれ」と言い出しました。この提案にデューラーは、驚くばかりで一言も言えず、友人の行為を甘受したのでした。それからと言うもの、年上の青年は生活を支えるため、誰もがいやがる仕事を好んでしました。というのも収入が多くあったためでした。その間デューラーは、寝るのもおしんで懸命に絵を描き続けました。

時は、またたくまに過ぎ去って行きました。やっと、デューラーの絵が人の目に止まり始め、収入も二人の生活には十分過ぎる程になりました。デューラーは、彼に「もう働くのは止めて一緒に絵を書こうよ」と言いました。彼も喜んでこれに同意したのですが、すでに指の関節は肥大し、指は曲り、とうてい筆を持つ手ではなくなっていたのでした。年上の彼は、毎夜、「ああ主よ、デューラー君を大成させて下さい、私は、彼を助けた事を誇りに思っています。そして、み心でしたら、私の手をも癒して下さい」と祈っていました。デューラーは、彼の祈りの手をスケッチし、一人では何も出来ず、支え合うことにより共に生きることを発見し

たのでした。その後、デューラーは友人の祈りを支えに、宗教画家として中世の金字塔を打ち立てたのでした。

デューラーが画家として歩めたのは、その陰に毎夜、ひたすら彼のために祈り続ける友人がいたからに他なりません。教会の業は一人の力でなし得るものではありません。教会がそれぞれ、人のために、隣人のために祈るとき、また自分も祈られている喜びを感謝するとき、そこにこそ大きな教会の力が与えられて行くのです。

これからも仙台の地で心を込めて祈り、更なる宣教の業をすすめ、祈りの教会として共に支え分かち合いつつ、一丸となって50年に向けて歩み続けたいものです。

主の豊かなる祝福と平安がベケダム先生と教会員のお一人おひとりの上に供えられますよう心よりお祈りしております。

感謝

### アルトン・クヌトソン

イエス様の御名を讃美します!

日本福音ルーテル仙台教会の40周年記念おめでとうございます。

この40年間は試練や色々な問題がありましたが、主は沢山のこの礼拝場所に入った人を祝福して下さいました。

主が前に進んで、50周年を記念するまで沢山の人を神の国に入るように。私達の仙台にいた9年間で覚えている兄弟姉妹に挨拶をします。

神の平和と力と喜びがあなたのものであるように。

### 私達の抱いている希望について説明する事

日本福音ルーテル仙台教会牧師 マフロン・ベケダム

私達は日本福音ルーテル仙台教会の40周年を省みて、これからの歩みについて考えています。今年の主題聖句はIペトロ3:15-16からです。

「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えておきなさい。それも、穏やかに敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。」

これは仙台教会の伝道の基礎です。殆どのアメリカの教会の兄弟姉妹も、日本の教会の兄弟姉妹も、もっと力強く、もっと精力的な証しをするべきだと思っています。他の教会と比べたら、日本福音ルーテル仙台教会は問題がないと思います。問題は全教會的だと思います。沢山の教派の本部は、余り宣教ビジョンがない様です。私達はそういう大きい問題に対して、余り対策を講じる事が出来ませんが、私達一人一人はペトロの言葉に従う事が出来るでしょう。

私のこれからの仙台教会の歩みのビジョンは、私達一人一人が力強く、抱いている希望について精力的に説明が出来る教会になる事です。一人一人に宣教ビジョンがある教会になるように勤めているのです。

私が何故そう思っているかと言えば、エホバの証人の事を考えています。エホバの証人がマインド・コントロール宗教団体であると言われていますが、彼らは宣教のビジョンがあります。彼らの信仰と彼らの宣教ビジョンにはとても深い関係があります。彼らの信仰は、沢山の問題点がありますが、私達ももっと密接に信仰と宣教ビジョンを関係付けるべきだと思っています。新約聖書を読むと、そういう信仰と宣教ビジョンに密接な関係があります。特に、イエス様やパウロやヨハネ等の黙示的な教えを調べると、その深い関係が分かるのです。ですから、今聖書研究会では、ヨハネの黙示録を勉強しているのです。

ある意味では、人に福音を伝える事はとても簡単です。「イエス様は私の救い主です。全人類の罪の為に死んで下さいました。私はイエス・キリストを信じて、信頼しています。」これはとても簡単な証しですが、適当に述べたら、強い印象深い証しになるでしょう。誰も、いつでも出来るでしょう。私達一人一人が、機会があれば、どういう証しが出来るか、について考えて、そして話し合っ頂きたいと思っています。これから、私達が数回集まって、自分が出来る証しについて話し合う機会を作りたいと思います。ペトロは「抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えておきなさい。」と書きました。こういう準備をする為の話し合いの会です。そして、私達は仙台教会の宣教ビジョンについて、一緒に考えて話し合いの会も必要だと思います。私は色々な意見があつて、宣教のビジョンを持っていますが、皆さんの宣教ビジョンをも聞きたいです。聖霊の御導きのもとに、一緒に宣教ビジョンを見つけましょう。

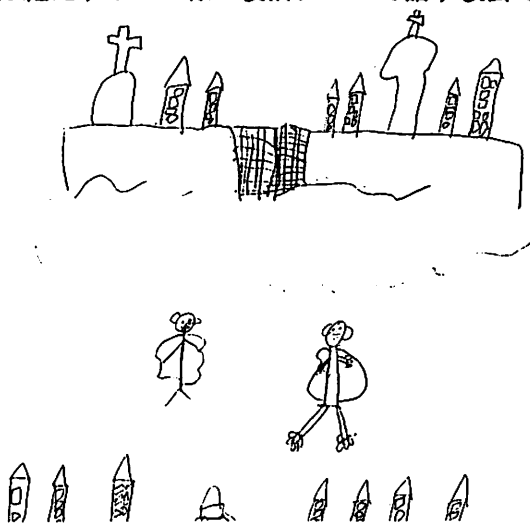
私が持っている宣教ビジョンは次の通りです。エホバの証人に福音の証しをする事—エホバの証人が訪問して彼らの証しをしようとする時、その証しを断る時、私達皆が短な福音の証しが出来るよう望んでいます。少なくとも、ヨハネ伝 20:28 の弟子トマスが言う様な証しが出来たらとても有意義だと思います。然し、エホバの証人の訪問を断る事より、エホバの証人が私の証しを聞かせてもらうように望んで

いるのです。ずっと待っていましたが、エホバの証人はなかなか来ません。彼らは牧師や宣教師の家を避けていると聞いた事があります。皆さん、キリストにある兄弟姉妹と共に、どういう証しが出来るか等について、準備をする話し合いの会を作りたいと思います。

一緒に仙台のキリストの宣教について祈る事—宣教ビジョンについての祈禱会を始めたいと思います。一緒に仙台にある宣教について祈って、聖霊が私達に宣教ビジョンを下さる為です。

他のキリスト教会を含む宣教する事—私達の仙台の宣教ビジョンは、仙台市内の全部のキリストにある兄弟姉妹を含む筈です。他のキリスト教会の兄弟姉妹と一緒に集まって、礼拝して、祈る機会があります。仙台キリスト教連合は、お正月の礼拝も祈禱会も講演会も主催しています。6月9日、仙台キリスト教連合はエホバの証人についての講演会を開きました。こういう集いに参加したら、もうちょっと聖霊が仙台に何を下さっているかを理解出来るでしょう。

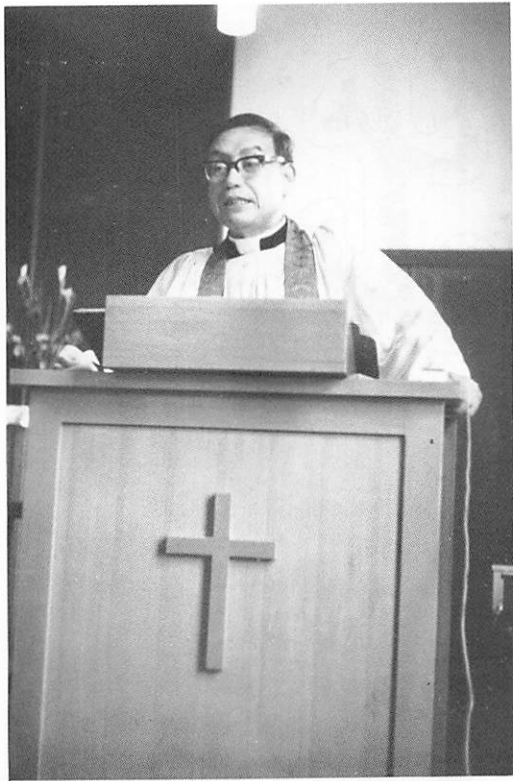
学生伝道、青年会の事—仙台教会の始まりを調べると、学生伝道はとても重要でした。学生伝道を始めようと思っていますが、青年会がないので機会を待っています。さて、私達の抱いている希望が何であるかと言えば、ペトロがこう書きました。「神は豊かな憐れみにより、私達を新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、又、あなたがたの為に天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しばまない財産を受け継ぐ者として下さいました。あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受ける為に神の力により、信仰によって守られています。」(ペトロの手紙—1:3-5) ペトロはキリスト者に対して、イエス様の復活について聞きたいという希望を抱いていることでしょう。私達は絶えずイエス様の復活について話す教会であるようにしましょう。



想・出の



ア・ル・ム



初代牧師 長沼三千夫



リビングストーン宣教師



相馬の青年の家にて修養会 1964年  
(徳善先生を迎えて)







1964年12月



1972年12月



1964年 教会学校ピクニック（野草園にて）



森郷キャンプ 1976年頃



高山セミナーハウスにて修養会 1968年

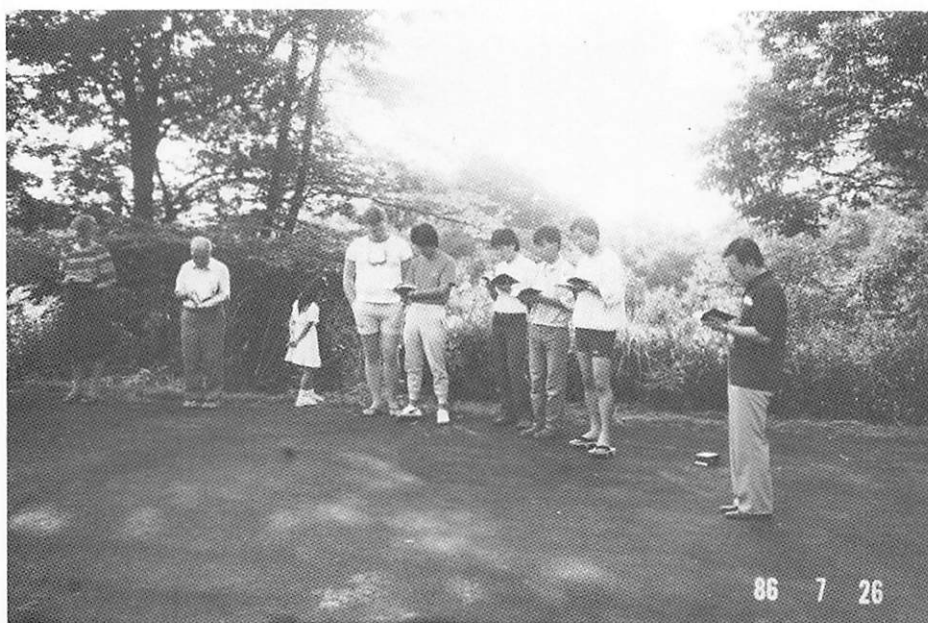




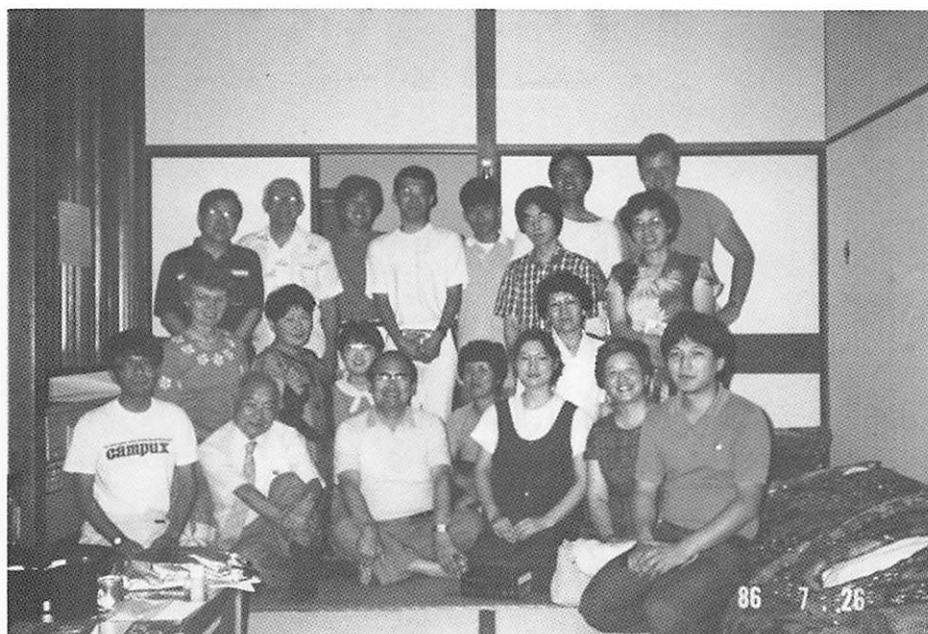
仙台、鶴ヶ谷教会合同礼拝 1983年頃



杉山晴吉先生希望園にて奉仕



1986年 青根セミナーハウスにて仙台、鶴ヶ谷合同修養会





1994年 英会話クラスサマーキャンプ



1995年 英会話クラスサマーキャンプ



1997年 復活祭





1997年 復活祭の祝会







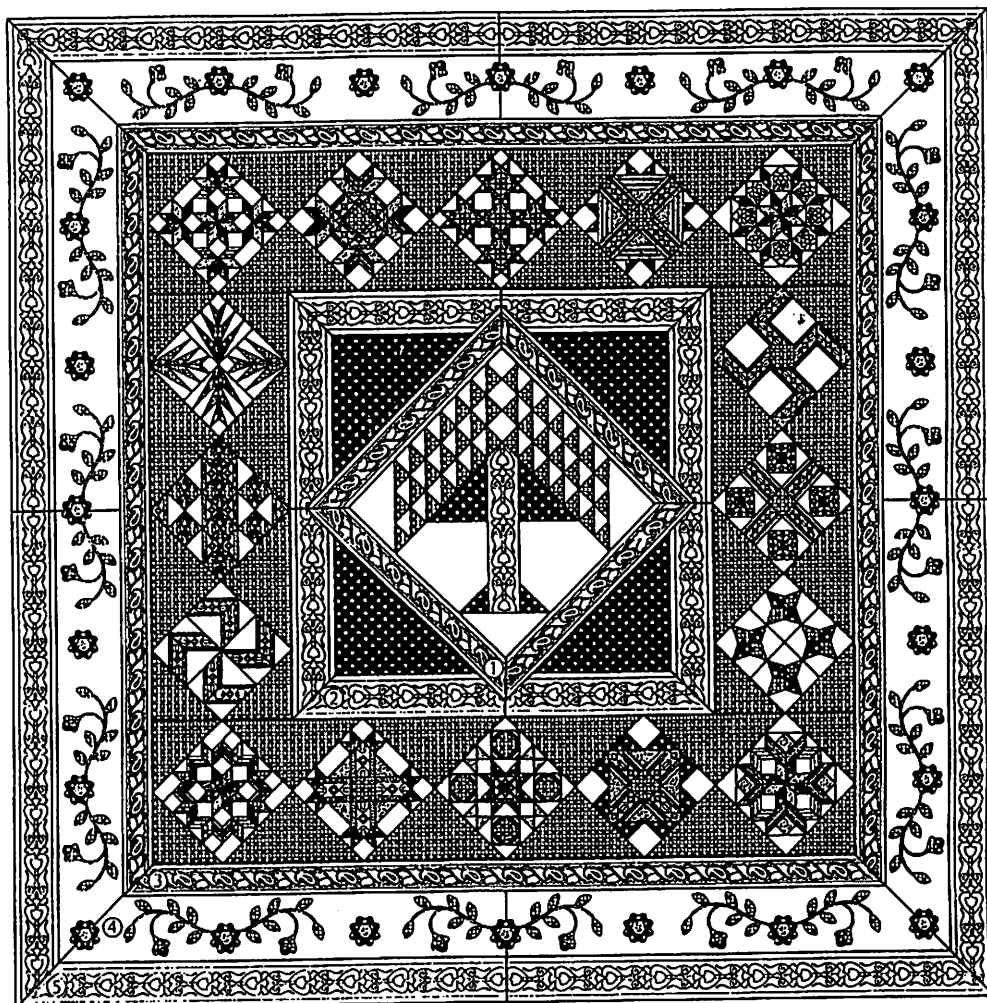
1997年 復活祭

## 40周年記念キルト制作

仙台教会では、ナンシー牧師夫人を中心にして、婦人会その他の協力により記念キルト制作をしました。記念キルトは各部分に聖書に関連した意味があります。その絵柄と説明は、以下にまとめて掲載します。 ナンシー・ベケダム

### 四十周年記念聖書キルト

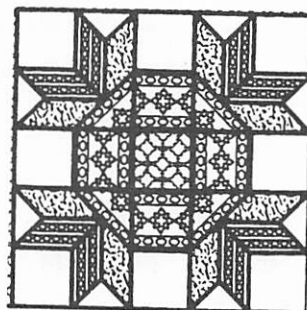
中央のブロックは「命の木」と呼ばれます。関係の聖書箇所は、「主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。」創世記 2:9、3:22、ヨハネの黙示録 2:7、22:2,14 です。「命の木」はエデンの園にありました。ヨハネの黙示録には、忠実にキリストの証しをする人は「命の木」を頂く、という約束です。





## ダビデとゴリアト

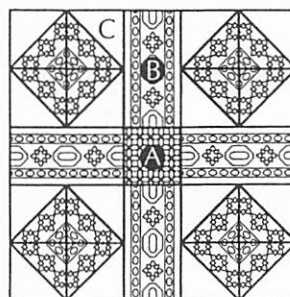
「ペルシテの陣地から一人の戦士が進み出た。その名をゴリアトといい、ガド出身で、背丈は六アンマ半、... ペルシテ人は身構え、ダビデに近づいて来た。ダビデも急ぎ、ペルシテ人に立ち向かうため戦いの場に走った。ダビデは袋に手を入れて小石を取り出すと、石投げ紐を使って飛ばし、ペルシテ人の額を撃った。石はペルシテ人の額に食い込み、彼はうつ伏せに倒れた。」サムエル記上 17:4, 48, 49



40 日間、高さ 3 メートル位のペルシテ人ゴリアトは、イスラエル軍に毎日挑戦しました。イスラエルの英雄と彼が両軍を代表して戦いました。彼の鎧と脊の高さはイスラエルの軍を恐怖におののかせたが、ダビデは神の民を挑戦する異邦人に怒って、ゴリアトと戦おうと思いました。ダビデが一番ありそうでない戦争の英雄でした。羊飼いで、他の兵士より若くて、体が小さいので借りた鎧に身を固められませんでした。それにも拘わらず、主なる神の御名をかけて、ゴリアトと戦って、石と石投げ紐を持って、巨人に打ち勝って、彼を殺しました。「全地がイスラエルに神がいますことを認める」(サムエル記上 17:46) 為でした。

## エデンの園

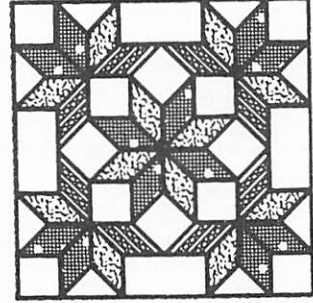
「主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。」創世記 2:8, 9



エデンという言葉は「喜ぶ」を意味します。人がエデンの園に置かれた理由は、その恵みを楽しむ為だけではなく、園の世話を為す為でした。人が園から追い出された理由は神様への不従順です。エデンの園が神様と人間との切れない交わりの象徴なのです。聖書キルトの中央にある命の木は、エデンの園の中央にあった命の木を意味しています。

## 天の星

IIコリント書5:1--「私達の地上の住みかである幕屋が滅びても、神によって建物が備えられていることを、私達は知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。」

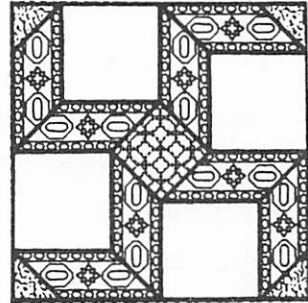


このブロックは、イエス様のイースターの復活の良いお知らせによる、神様と一緒に永遠に住む事が出来るような神様の御約束を思い出させます。

イエス様の復活の出来事は、各信者の復活についての約束が含まれているからです。使徒パウロはIコリント書15:20-23にこう書きました。「然し、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人達の初穂となりました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人達。」

## エルサレムへの道

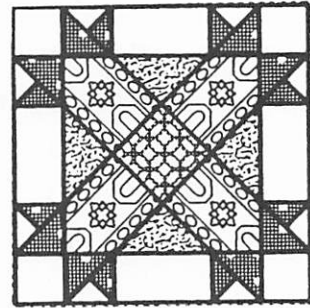
マルコ伝 10:32--「一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。」



このブロックは、イエス様が私達の為に歩いて下さった難しい道を思い起こさせます。弟子達は、行きたくありませんでした。大変な事がエルサレムに起こるだろうと分かったのです。エルサレムから遠いガリラヤの国に残りたかったのです。然し、エルサレムはユダヤ人にとって世界の中心でした。ユダヤ人の指導者はエルサレムにいて、イエス様の適は殆ど皆そこにいました。ローマ皇帝のパレスチナ総督もそこにいました。イエス様は弟子達の先頭に歩いて行きました。そこで何が起きるかをはっきり判りましたが、勇気を持って、大胆に、決然として「エルサレムへの道」を歩きました。

### ゴルゴタ

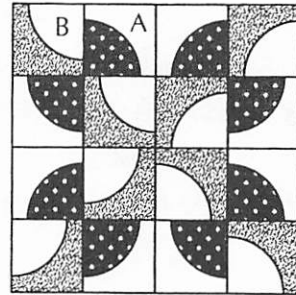
「こうして、彼らはイエスを引き取ったイエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。そこで、彼らはイエスを十字架につけた。」 ヨハネによる福音書 19:17, 18



「ゴルゴタ」はイエス様が十字架に掛けられたエルサレムの所の地名です。このブロックはイエス様がゴルゴタまで運んで下さった死刑の道具と成った十字架の描写です。この物語はイエス様の死に終わらないで、彼の復活による死に対する勝利に続いて、人間皆も罪と死に対して勝利を得て、永遠に神様と一緒に住む事が出来る為です。

### ソロモンのパズル

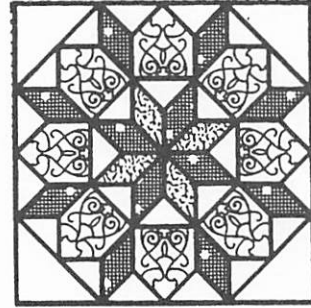
「神はソロモンに非常に豊かな知恵と洞察力と海辺の砂浜のような広い心をお授けになった。ソロモンの知恵は東方のどの人の知恵にも、エジプトのいかなる知恵にもまさった。」 列王記上5:9, 10。



ソロモン王について一番よく覚えられている事は、何でも与えて下さるという事を、神様が夢の中でソロモン王に言って下さると、ソロモン王が神様から知恵を頼んだという事です。富や長命を頼まないで、民を正しく裁き、善と悪を判断する事が出来るように、頼みました。それが神様を喜んで、神様がソロモン王に知恵と富と名誉と長命を全部与えて下さったのです(列王記上3:3-14)。ですから、ソロモン王は遠い国にも知恵で有名でした。シェバの女王はソロモン王の名声を聞いて、難問をもって彼を試そうとしてやって来ました。難問を終えたとシェバの女王は言いました「私に知らされていた事はその半分にも及ばず、お知恵と富はうわさに聞いた事を遥かに超えています」(列王記上10:7)。ですから、ソロモン王は謎を解く知恵もあったと言われていました。このパズルを解く事も出来るだろうと言う意味です。

### 占星術の学者の星

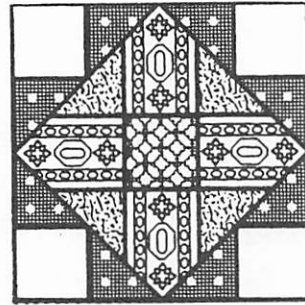
「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。その時、占星術の学者達が東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私達は東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」マタイ伝 2:1,2



占星術の学者は東の国から来たイスラエルの神を信じていませんでしたが、幼な子キリストがいらっしゃる家まで星に導かれて、黄金、乳香、没薬の宝物の贈り物を捧げて、ひれ伏してキリストを拝みました。

### 十字架の中の十字架

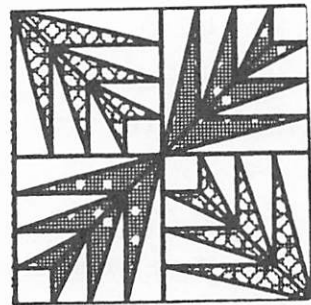
「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自分の前にある喜びを捨て、恥をいとわないうで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。」ヘブライ書 12:2



十字架は当時、宣告された人を辱める残酷な死刑のやり方です。それでも、キリストの十字架の上の死は、救いを持たらして、キリスト教の希望の源です。キリストの愛と力の一番良い例です。

### ホサナ

「大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして叫び続けた。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」ヨハネ伝 12:12,13

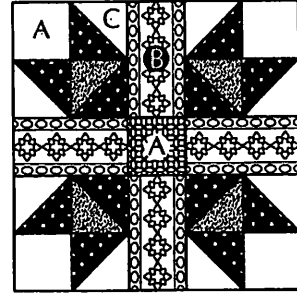


「ホサナ」というヘブライ語の言葉は、「救い給え」という意味です。キリストがエルサレム入城をした時、群衆が椰子の枝を持って迎えに出ました。椰子の枝は、勝利の印で、キリストの罪と死とに対する勝利の印となりました。このキルトの椰子の枝のパターンは、「ホサナ」と呼ばれて、200年以上の歴史があり、キリストを自分の心とお家に迎えるように、思い出させるのです。

### 天における戦い

「さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、勝てなかった。」ヨハネの黙示録 12:7,8

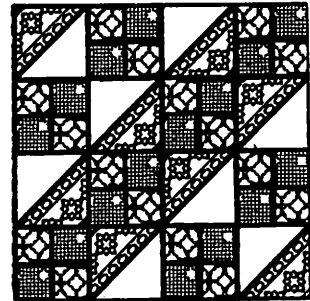
この箇所は天での良い天使対悪い天使の戦いについてです。キリストが十字架の上で死に打ち勝ったので、良い天使は勝ちました。十字架はブロックの中央に描写してあります。



### ヤコブの階段

「すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。」創世記28:12

ヤコブの夢によって、天と地の間を渡す可能性があると分かります。昔、神様は夢や幻を用いて、ヤコブやヨブやヨセフやソロモンやダニエル等のある人々と話して下さいました。

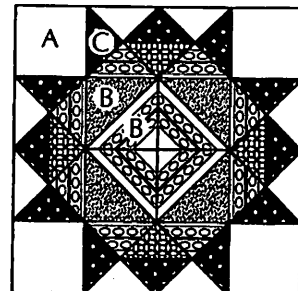


今、イエス・キリストは私達の階段」と成りました。天国へ行って、天の父なる神様と和解して、神様と交わりを楽しむ道はイエス・キリストです(ヨハネ伝14:6-「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことが出来ない」)。他の意味では、祈りは私達の天国への階段であると言えましょう。(讚美歌一編312、320番)

### 茨の冠

部隊の全員が「イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。」マルコ伝 15:17, 18。

このブロックは、ピラトがイエス様に死刑の宣告を下した後、イエス様を愚弄する為の編まれて頭の上に押しつけられた茨の冠の描写です。大変な痛みだったでしょう。





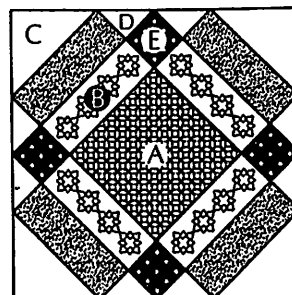
然し、実はイエス様は私達の王様です。冠が茨の冠であっても、王様として認めるのです。私達の為に馬鹿にされて、辱められて、悩み苦しめられて、その冠をかぶって下さいました。

### イスラエルの民

「まさにこの日に、主はイスラエルの人々を部隊ごとにエジプトの国から導き出された。」出エジプト記 12:51

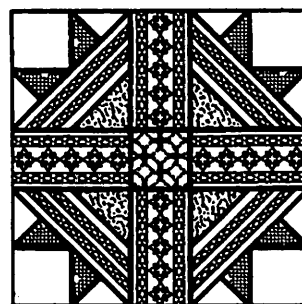
イスラエルの人々はヤコブの子孫です。天使と取り組んだ時、ヤコブの名前はイスラエルに変わりました。彼は12人の息子がいて、11番目はヨセフでした。ヨセフは兄弟に憎まれて、彼らは奴隷としてヨセフをエジプトに送ってしまいました。神様を信頼する事によって、エジプトの二番目に力がある者となりました。

七年間の飢餓の間、ヨセフはお父さんイスラエルと11人の兄弟と兄弟の家族がエジプトにくるように、努めて彼らを救いました。430年後、ヤコブの子孫は数多くなって、ヨセフの有名が忘れたので、エジプトの王様は脅迫を感じて、イスラエルの人々は奴隷として扱われてしまいました。ですから、神様は彼らをエジプトから約束された土地へ導くようにモーセを選んで、イスラエルの民を解放して下さいました。



### 十字架と冠

「あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない。見よ、悪魔が試みるために、あなたがたの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは、十日の間苦しめられるであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。」ヨハネの黙示録 2:10



キリストは十字架の上の死を通して自分の冠を得ました。私達はキリストの足跡に従うべきです。キリストの兄弟姉妹は一人一人自分の担うべき十字架があり、冠も待っているのです。このブロックは十字架と冠です。

### ヨセフの晴れ着

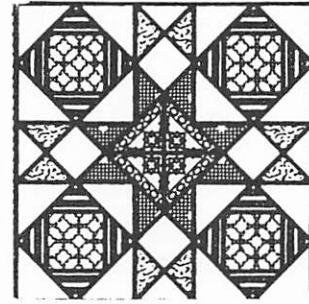
「ヤコブは、ヨセフが年寄り子であったので、どの息子よりもかわいがり、彼には裾の長い晴れ着を作ってやった。」創世記37:3

ヤコブが何故他の息子よりヨセフをかわいがったかを理解するのは難しいかも知れません。特に、ヨセフは長男ではなかったです。

私達は、自分の子供に対してするべきではないことでしょう。然し、ヤコブは次男で、お兄さんの長子の権利を買おうと思いました。同じように、ヤコブは自分の後継者を選ぼうと思ったようです。永い間子を産めない妻の年寄りの息子をかわいがることを理解出来るでしょう。

ヤコブはヨセフをかわいがることを、裾の長い晴れ着を作ってやったことを通して、見せました。当時、そういう裾の長い晴れ着は、多分、パッチワークの様に、長いいろんな色から織りて縫い合わせた生地から出来た物でしょう。裾が長いので、そういう晴れ着を着ると、余り働けないでしょう。ですから、ヨセフがそれを着ると、自分が特別でかわいがられている息子であると強く印象を与えるでしょう。

このブロックは、わたしが縫いました。私達の息子ヨセフは、この旧約聖書のヨセフの名を取って付けたものです。どんなに難しい状態にあっても、絶えず神様を信じて信頼したからです。

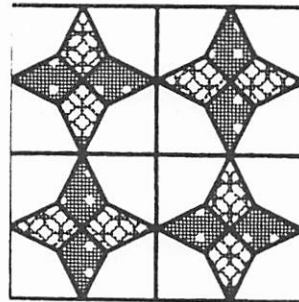


### ヨブの涙

「私のために執り成す方、私の友神を仰いで私の目は涙を流す。」ヨブ記16:20

ヨブ記は報いと罰、希望と絶望についての物語です。主人公ヨブは、富んでいましたが、急に家族と富と健康を失って、痛みにいっぱい悩み苦しみの日々が続きます。これは彼の信仰と忠実性を試すサタンの企みでした。

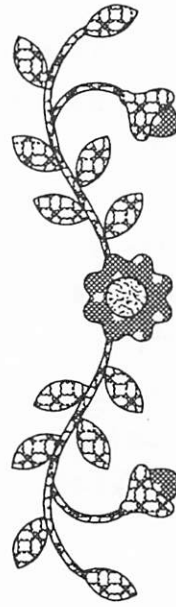
ヨブは結局完全に神様の知恵と力に自分を任せて、神様の彼の人生に関しての御旨を受け入れました。ですから、私達は信仰が神様からの絶対捨ててはいけない賜物であると分かるのです。そして、信仰を持つ人の幸いさを見る事が出来るのです。昔の時代から現代まで、悩み苦しみや痛みや「涙」を体験する信者にとって、慰めと希望になるのです。



### シャロンのばら

「私はシャロンのばら、野のゆり。」雅歌2:1

シャロンのばらは、とても美しい花です。何の美しい花か、植物学者は色々な論がありますが、本当の薔薇の花ではなく、サフランの花でしょう。ばらというのは、とても美しい花という意味です。シャロンというのは地名です。この花が聖書に一回しかしるされていないのに、何よりも美しさを意味する言葉として使うようになりました。雅歌のおとめはシャロンのばらの様に美しい、と書いてあります。キリスト教の賛美歌や詩等には、キリストはシャロンのばらの様に美しいと言われているのです。例えば賛美歌第二編192番です。



## 編集後記

今から40年前長沼三千夫牧師によって種がまかれ、そしてこの節目にマフロン・ベケダム牧師が昨年4月着任されました。

先生より40周年記念行事が提案され、40周年記念事業実行委員会が昨年10月発足し、その中の一つとして記念誌を発行することになりました。信仰を共に分かち合い証しすることができる記念誌を目指して又仙台教会の信仰のあゆみを知ることにより、これからの伝道の糧として刻んでいこうとするものでした。今年の2月には“主にありて”の記念誌の名称が多くの応募の中から選ばれスタートしました。

仙台教会のあゆみについて資料が不十分であったため計数的な把握、又不備な点が多かったことに反省させられています。しかし今までの歩んできた道が見えてきたことは大きな恵みであったと思っています。

その当時とりくんできた出来事、楽しかった思い出、苦しかったことがいつも神様とともにあったことを思い知らされます。教会学校の子供達も挿絵を手伝いました。

沢山の方々にはお忙しい中で寄稿・又色々な形でお支えとご協力下さり又励ましていただきありがとうございます。

この事を土台としてイエスキリストに聞きしたがっていく群れとして力強く進んで行きましょう。

### 「記念誌」発行編集委員

マフロン・ベケダム

成田しげ子

小野寺洋逸

高橋千鶴子

中村和子

小川耕樹

### 「主にありて」

日本福音ルーテル仙台教会 40周年記念誌

発行日 1997年10月26日

発行者 日本福音ルーテル仙台教会

〒980 仙台市青葉区宮町 4-4-39